

後発医薬品の使用促進策の影響 及び実施状況調査報告書(案) ＜概要＞

調査の概要①

1 調査の目的

- 令和6年度診療報酬改定を受けたバイオ後続品を含む後発医薬品の使用促進策や長期収載品の保険給付の見直しにより、
 - ・ 保険薬局における一般名処方の記載された処方箋の受付状況、後発医薬品の調剤状況や備蓄状況、保険医療機関における一般名処方の実施状況、後発医薬品の使用状況や医師の処方などについて、医薬品の供給状況等の環境の変化も加味し、どのように変化したのか
 - ・ 医師、歯科医師、薬剤師及び患者の後発医薬品に対する意識についての調査・検証を行った。

2 調査の対象及び調査方法

本調査では、「保険薬局調査」、「一般診療所調査」、「歯科診療所調査」、「病院調査」、「医師調査」、「患者調査（郵送調査）」及び「患者調査（インターネット調査）」の7つの調査を実施した。

各調査対象は次のとおり。

- (1) 保険薬局調査
 - ・ 無作為抽出で1,500施設
- (2) 一般診療所調査
 - ・ 無作為抽出で1,000施設
- (3) 歯科診療所調査
 - ・ 外来後発医薬品使用体制加算の届出をしている250施設
 - ・ 外来後発医薬品使用体制加算の届出をしていない250施設
- (4) 病院調査
 - ・ 無作為抽出で1,000施設

調査の概要②

2 調査の対象(続き)

(5) 医師調査

- ・ (4)病院調査の対象施設で、外来診療を担当し、診療科の異なる医師2名(1施設)

(6) 患者調査(郵送調査)

- ・ (1)保険薬局調査の対象施設を受診した患者2名(1施設)

(7) 患者調査(インターネット調査)

- ・ 直近3か月間で保険薬局に処方箋を持って来局した患者のうち、性・年代別に等分し、無作為抽出した1,000人

3 調査の方法

- 「保険薬局調査」、「一般診療所調査」、「歯科診療所調査」、「病院調査」は、対象施設に対して自記式調査票・依頼状を郵送配布し、「患者調査(郵送調査)」「医師調査」は、対象施設経由で自記式調査票を配布し、直接の回答を依頼した。
- 「保険薬局調査」、「一般診療所調査」、「歯科診療所調査」、「病院調査」における対象施設からの回答方法は、
 - ・ 同封の返信用封筒により、記入済の紙の調査票を返送してもらう方法
 - ・ 調査専用のウェブサイトから電子調査票をダウンロードし、記入済のファイルをメールで調査事務局あて送付してもらう方法の2種類のうち、対象施設にて選択を可能にした。
- 「患者調査(インターネット調査)」はインターネット上で回答をいただく方法とした。

4 回収の状況

調査の概要③

- 調査実施時期は令和7年1月6日から1月20日(「患者調査(インターネット調査)」は令和7年1月16日から1月24日)であった。
- 調査実施期間は
- 保険薬局調査の有効回答数は610件、有効回答率は40.7%であった。
- 一般診療所調査の有効回答数(施設数)は339件、有効回答率は33.9%であった。
- 歯科診療所調査の有効回答数(施設数)は240件、有効回答率は48.0%であった。
- 病院調査の有効回答数(施設数)は229件、有効回答率は22.9%であった。また、医師調査の有効回答数は299人であった。
- 患者調査の有効回答数は、郵送調査は729人、WEB調査が1,000人であった。

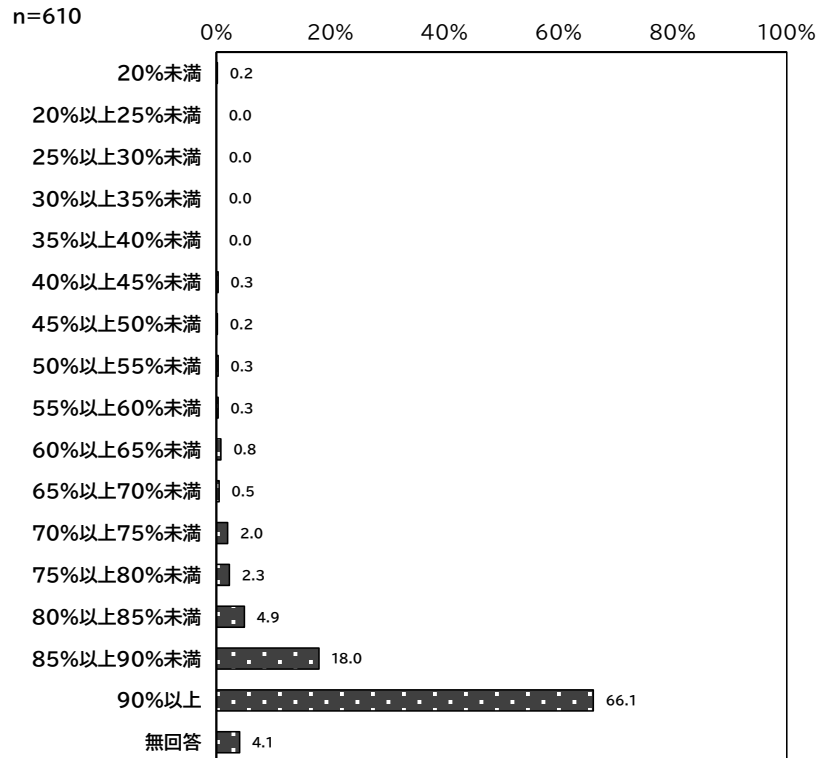
調査対象	発送数	有効回答数	有効回答率	令和5年度調査 回答率(参考)
保険薬局	1,500	610(施設)	40.7%	52.8.%
一般診療所	1,000	339(施設)	33.9%	37.5%
歯科診療所	500	240(施設)	48.0%	49.9%
病院	1,000	229(施設)	22.9%	29.6%
医師	—	299(人)	—	—
患者(郵送調査)	—	729(人)	—	—
患者(WEB調査)	—	1,000(人)	—	—

施設調査(保険薬局)の結果①

後発医薬品調剤割合(前回調査と対比)(報告書P19)

- 令和6年11月(1か月間)の後発医薬品調剤割合の分布をみると、「90%以上」が最も多く、66.1%であった。

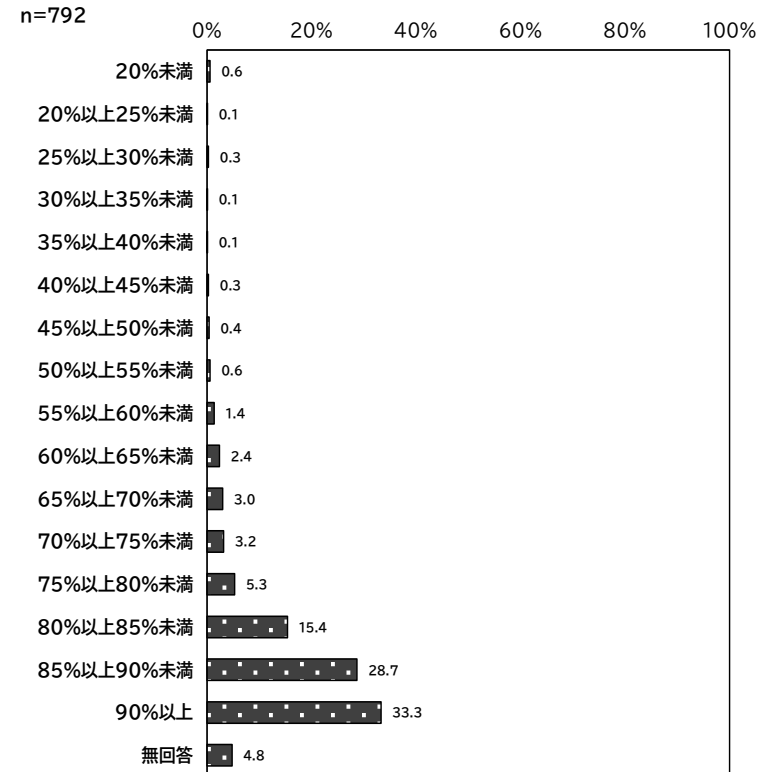
令和6年度調査(薬局票) 図表2-12



(単位: %)

	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
後発医薬品調剤割合 (調剤報酬算定上の数値)	585	89.6	8.3	92

参考: 令和5年度調査(薬局票)図表2-23



(単位: %)

	回答施設数	平均値	標準偏差	中央値
令和5年6月	754	83.9	12.3	87.0

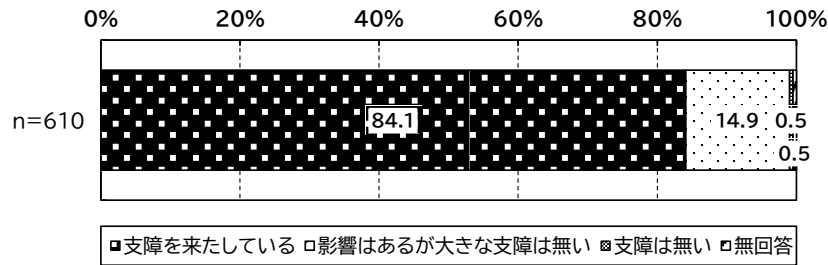
施設調査(保険薬局)の結果②

1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化(報告書P27・P28)

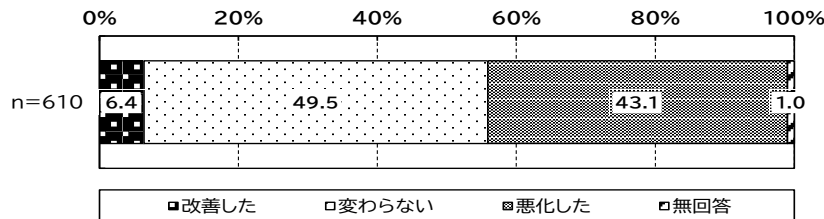
- 現時点での後発医薬品の供給体制について、「支障を来している」が84.1%であった。
- 1年前(令和5年11月1日)と比較した後発医薬品の供給体制について、「悪化した」は43.1%、「変わらない」は49.5%であった。

図表 2-25

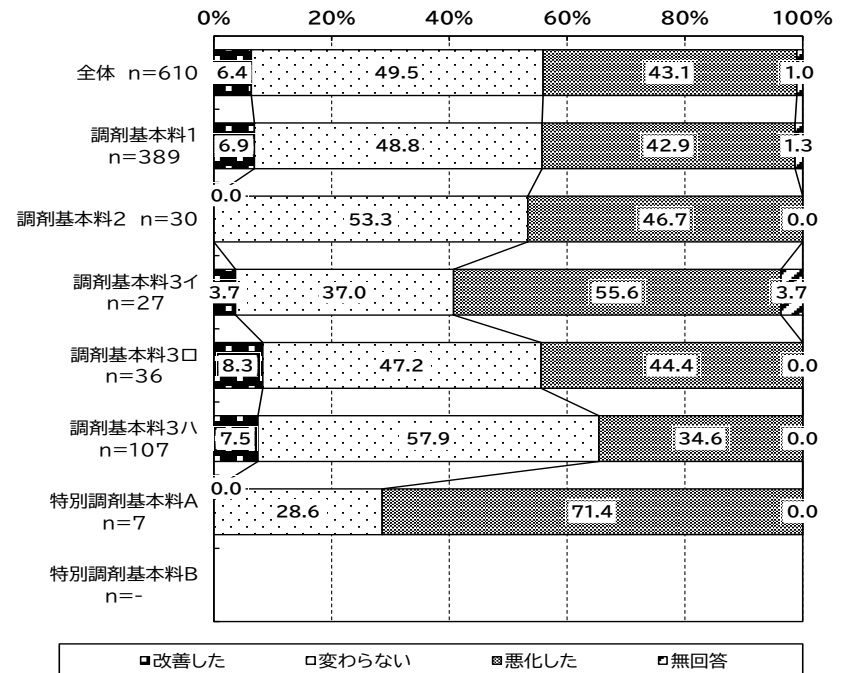
現時点での後発医薬品の供給体制についての考え



図表 2-27 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化



図表 2-28 1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化
(調剤基本料別の分析(7区分))



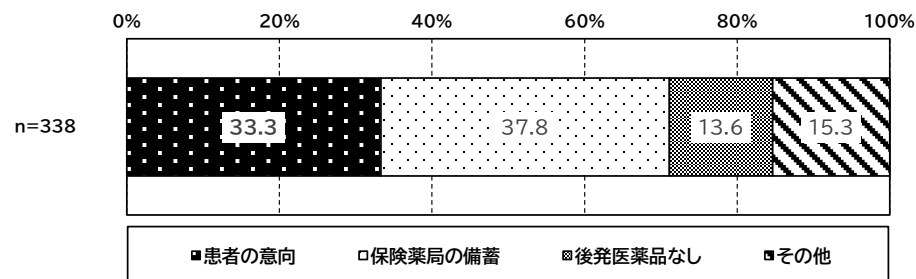
施設調査(保険薬局)の結果③

一般名処方の処方箋を持参した患者のうち後発医薬品を調剤しなかった理由(報告書P58)

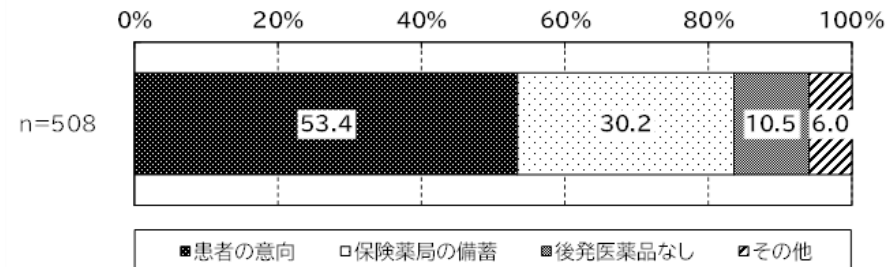
- 一般名処方が行われた医薬品について、後発医薬品を調剤しなかった場合の理由について前回調査と比較すると、「患者の意向」が53.4%から33.3%へ減少し、「保険薬局の備蓄」が30.2%から37.8%へ増加した。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-63

※後発医薬品を調剤しなかったことがあると回答した施設における調査



参考: 令和5年度調査(薬局票)図表2-66



施設調査(保険薬局)の結果④

令和6年12月2日(月)～12月8日(日)に受け付けた処方箋の状況(新)(報告書P43)

○ 1週間で受け付けた処方箋について、「1品目でも一般名処方が含まれている処方箋」の割合は52.8%、「長期収載品を銘柄名で処方し、変更不可(医療上必要)となっている医薬品が1品目でもある処方箋」の割合は1.1%、「長期収載品を銘柄名で処方し、患者希望となっている医薬品が1品目でもある処方箋」の割合は0.8%であった。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-46

(単位: 枚)

	調査数(件)	平均値	合計	割合(%)	標準偏差	中央値
① 令和6年12月2日(月)～12月8日(日)に受け付けた処方箋枚数	529	276.9	146,500	—	161.8	257
② 前記①のうち、1品目でも一般名処方が含まれている処方箋の枚数	390	198.3	77,319	52.8	139.3	190.0
③ 前記①のうち、後発医薬品が存在する医薬品の全てを一般名処方としている処方箋の枚数	390	152.0	59,299	40.5	121.2	127.5
④ 前記①のうち、長期収載品を銘柄名で処方し、変更不可(医療上必要)となっている医薬品が1品目でもある処方箋の枚数	390	4.0	1,549	1.1	8.1	1.0
⑤ 前記①のうち、長期収載品を銘柄名で処方し、全て変更不可(医療上必要)となっている処方箋の枚数	390	1.1	416	0.3	3.3	0.0
⑥ 前記①のうち、長期収載品を銘柄名で処方し、患者希望となっている医薬品が1品目でもある処方箋の枚数	390	2.9	1,135	0.8	7.0	0.0
⑦ 前記①のうち、長期収載品を銘柄名で処方し、全て患者希望となっている処方箋の枚数	390	1.1	411	0.3	3.8	0.0
⑧ 前記①のうち、後発医薬品を銘柄名で処方し、変更不可(医療上必要)となっている医薬品が1品目でもある処方箋の枚数	390	0.8	301	0.2	2.4	0.0

※全体(①)に占める各内数(②～⑧)の割合を算出しているが、②～⑧以外の処方箋も存在することから、内数の合計は全体に一致しない。

施設調査(保険薬局)の結果⑤

一般名で処方された医薬品における対応状況の割合(新)(報告書P44)

- 一般名で処方された医薬品の対応状況についてみると、「後発医薬品を調剤した」割合は82.7%、「長期収載品を調剤した」割合は8.2%であった。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-47

(単位：品目)

	調査数(件)	平均値	合計	割合(%)	標準偏差	中央値
一般名で処方された医薬品の品目数	345	333.5	115,055	—	391.9	212.0
一般名で処方された医薬品の品目数のうち、 後発医薬品を調剤した品目数	345	275.7	95,130	82.7	348.7	161.0
一般名で処方された医薬品の品目数のうち、 先発医薬品(長期収載品を除く)を調剤した品 目数	345	33.2	11,449	10.0	59.8	10.0
一般名で処方された医薬品の品目数のうち、 長期収載品を調剤した品目数	345	27.3	9,408	8.2	51.6	11.0

施設調査(保険薬局)の結果⑥

長期収載品の銘柄名で処方された医薬品における対応状況の割合(新)(報告書P45)

- 長期収載品の銘柄名で処方された医薬品のうち「後発医薬品へ変更して調剤した」割合は73.6%、「長期収載品を調剤した」割合は25.4%であった。
- 長期収載品を調剤した医薬品のうち、「処方箋に「患者希望」が指示されていた」割合は17.8%、「処方箋に「変更不可(医療上必要)」が指示されていた」割合は23.3%であった。また、「後発医薬品の在庫状況等を踏まえ、後発医薬品の提供が困難であり、長期収載品を調剤せざるを得なかった」割合が43.9%であった。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-48

(単位:品目)

	調査数(件)	平均値	合計	(A)に占める割合(%)	(B)に占める割合(%)	標準偏差	中央値
長期収載品の銘柄名で処方された医薬品の品目数…(A)	335	37.5	12,558	—	—	117.0	8.0
(A)のうち、後発医薬品へ変更して調剤した品目数	335	27.6	9,242	73.6	—	99.4	3.0
(A)のうち、長期収載品を調剤した品目数…(B)	335	9.5	3,196	25.4	—	18.4	4.0
(B)のうち、処方箋に「患者希望」が指示されていた品目数	335	1.7	568	—	17.8	5.4	0.0
(B)のうち、処方箋に「患者希望」は指示されていないが、患者が長期収載品の調剤を希望した品目数	335	5.3	1,770	—	55.4	11.7	1.0
(B)のうち、処方箋に「変更不可(医療上必要)」が指示されていた品目数	335	2.2	744	—	23.3	4.0	0.0
(B)のうち、薬剤師が医療上の必要があると判断した品目数	335	0.4	136	—	4.3	1.5	0.0
(B)のうち、後発医薬品の在庫状況等を踏まえ、後発医薬品の提供が困難であり、長期収載品を調剤せざるを得なかった品目数	335	4.2	1,403	—	43.9	9.7	0.0

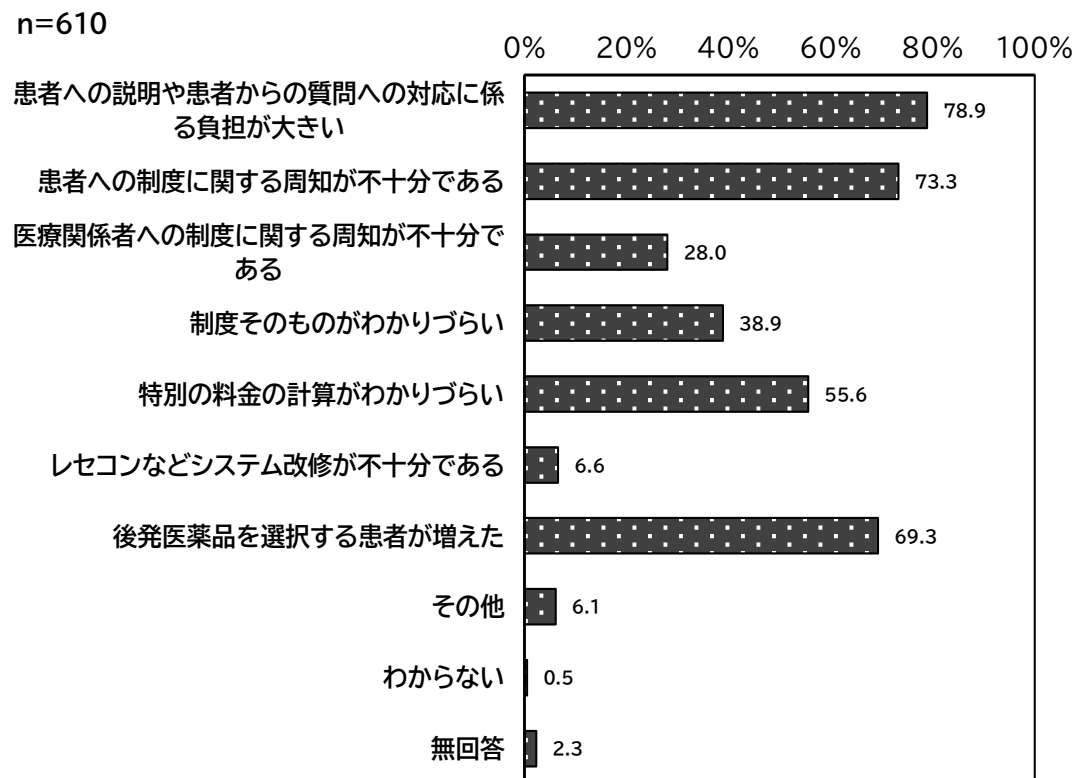
※ 全体(A及びB)に占める各内数の割合を算出しているが、同一品目を複数の項目にカウントしている施設や内数の和が全体に満たない施設があったため、内数の合計は全体に一致しない。

施設調査(保険薬局)の結果⑦

長期収載品の選定療養制度を導入したことによる影響や課題
(複数回答)(新)(報告書P46)

○ 長期収載品の選定療養制度を導入したことによる影響や課題について尋ねたところ、「患者への説明や患者からの質問への対応に係る負担が大きい」が最も多く78.9%であった。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-49



施設調査(保険薬局)の結果⑧

特定薬剤管理指導加算3の算定件数(新)(報告書P38)

- 特定薬剤管理指導加算3の算定件数について、「イ 長期収載品の選定療養に関する説明を実施した場合」は平均22.8件、「ロ イで説明したうち、実際に長期収載品から後発医薬品に変更した件数」は11.6件であった。また、「ハ 医薬品の供給上の問題により別の銘柄の医薬品に変更が必要となった患者に対する説明を実施した場合」は5.9件であった。

令和6年度調査(薬局票) 図表2-38

(単位: 件)

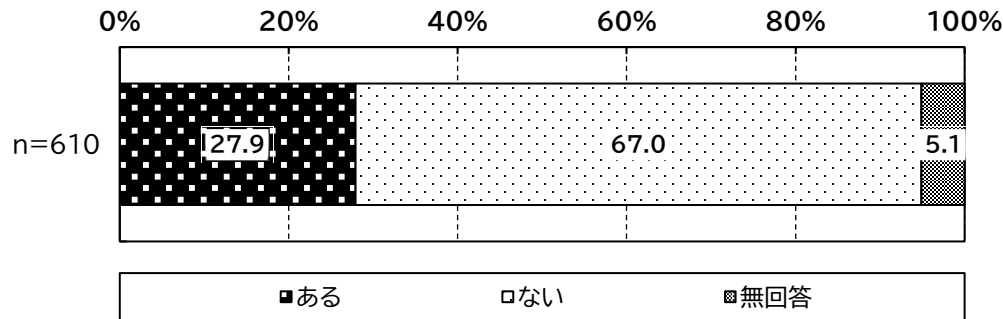
	調査数(件)	平均値	標準偏差	中央値
イ 長期収載品の選定療養に関する説明を実施した場合	520	22.8	33.7	9
ロ イで説明したうち、実際に長期収載品から後発医薬品に変更した件数	522	11.6	20.7	2
ハ 医薬品の供給上の問題により別の銘柄の医薬品に変更が必要となった患者に対する説明を実施した場合	503	5.9	13.4	0

施設調査(保険薬局)の結果⑨

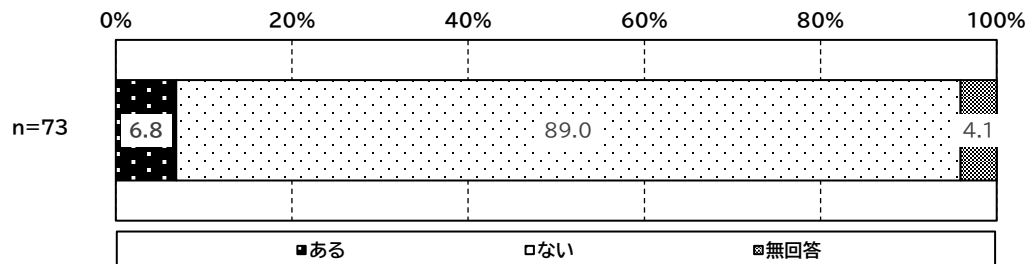
バイオ後続品の不安定供給(新)(報告書P61・P62)

- バイオ後続品の備蓄状況から不安定供給を感じることの有無について、「ある」が27.9%、「ない」が67.0%であった。
- バイオ後続品のうち、不安定供給を感じる製品については、「インスリン__リスプロ」が最も多く52.4%、次いで「インスリン__アスパルト」が多く43.5%であった。

バイオ後続品の備蓄状況から
不安定供給を感じることの有無 図表2-68

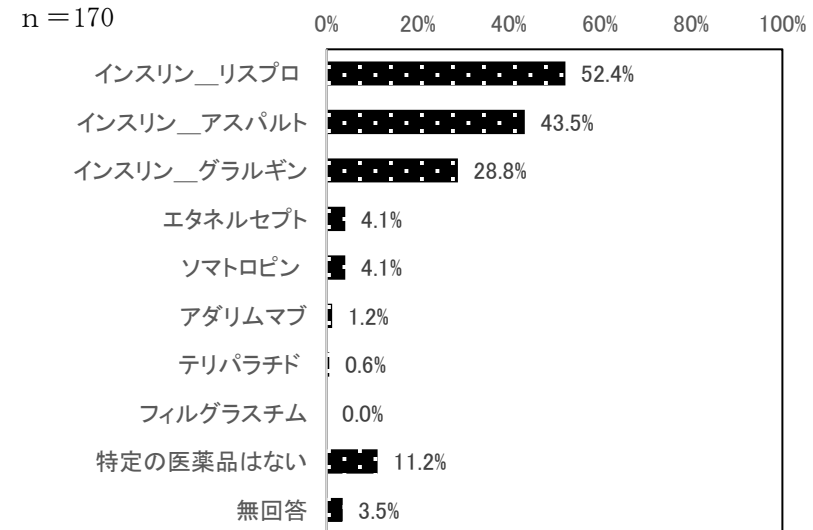


(参考) 【バイオ後続品の備蓄がある薬局のみの集計】



バイオ後続品のうち、不安定供給を感じる
製品(複数回答) 図表2-69

(バイオ後続品の備蓄状況から不安定供給を感じる
ことがあると回答した薬局における調査)

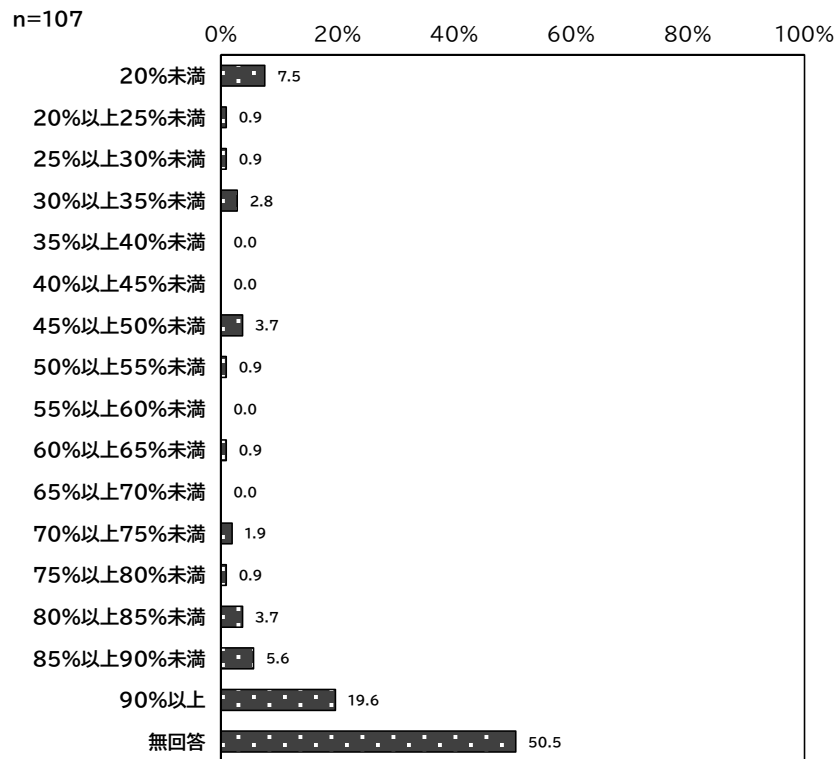


施設調査(一般診療所・病院)の結果①

後発医薬品使用割合の分布<新指標、数量ベース>(報告書P90)

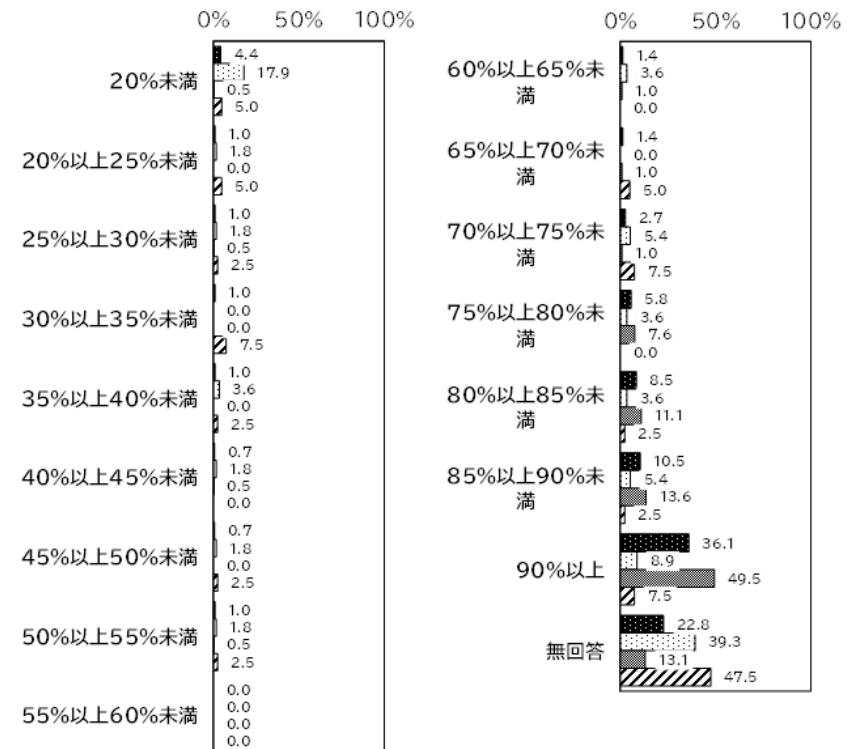
○ 有床診療所、または無床診療所で院内処方を行っている施設における令和6年11月の後発医薬品使用割合<新指標、数量ベース>は「90%以上」が最も多く19.6%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-17



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-19

診療所における後発医薬品使用割合の分布(新指標、数量ベース)
(有床診療所、及び院外処方5%未満の無床診療所) (令和5年6月)



■全体 n=294

□【抽出条件①】外来腫瘍化学療法等の届出あり施設 n=56

■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=198

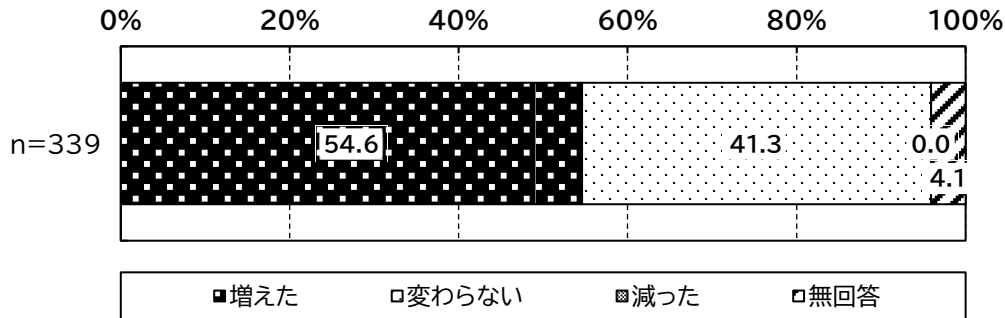
□【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出ていない施設 n=40

施設調査(一般診療所・病院)の結果②

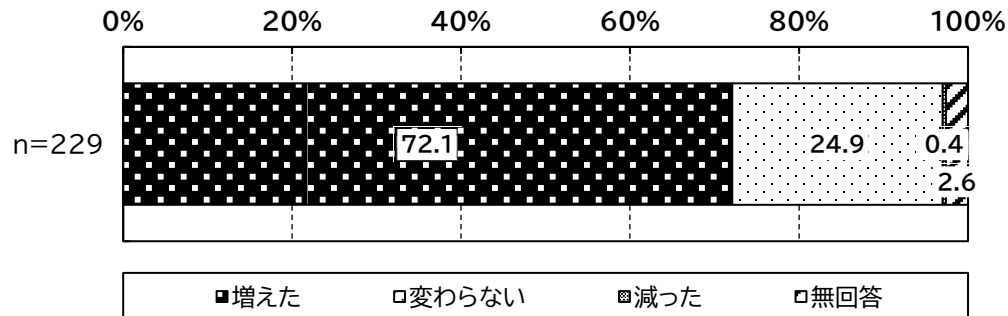
1年前と比較した後発医薬品に係る対応の業務量の増減(報告書P95・P198)

○ 1年前と比較した後発医薬品に係る対応における業務量について、一般診療所調査では「増えた」施設が54.6%、病院調査では「増えた」施設が72.1%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-25

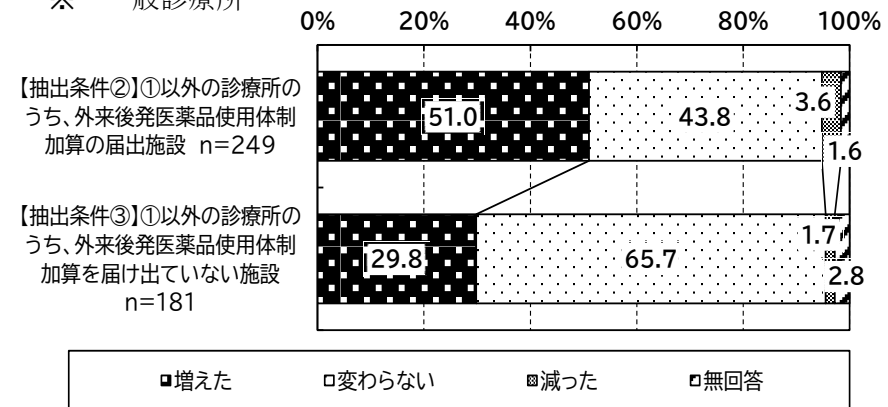


令和6年度調査(病院票) 図表5-17

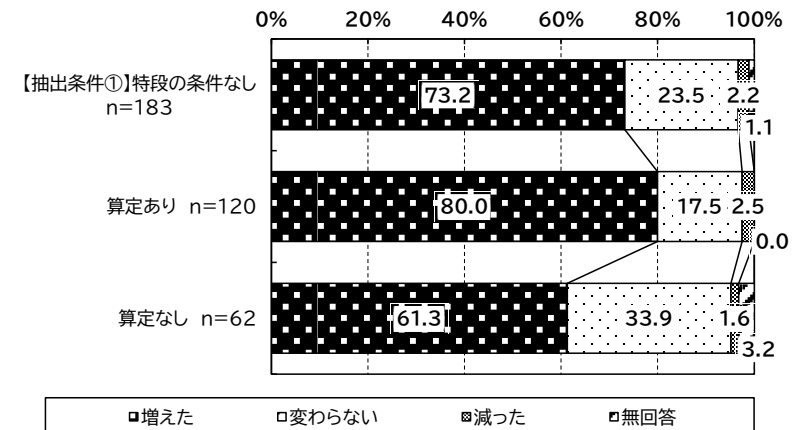


参考: 令和5年度調査(診療所票・病院票)図表3-47

※ 一般診療所



※病院(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

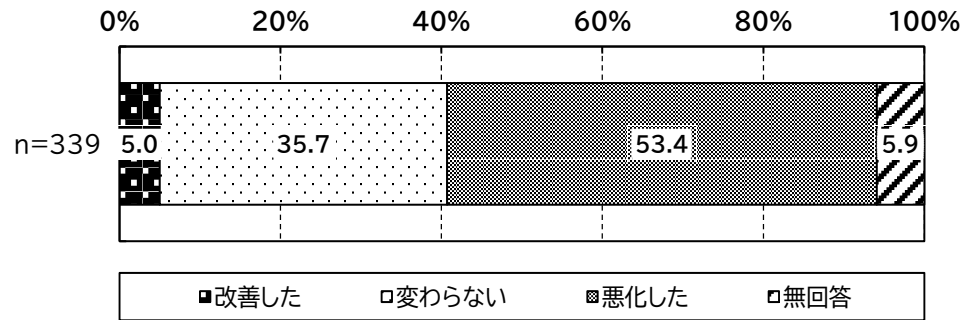


施設調査(一般診療所・病院)の結果③

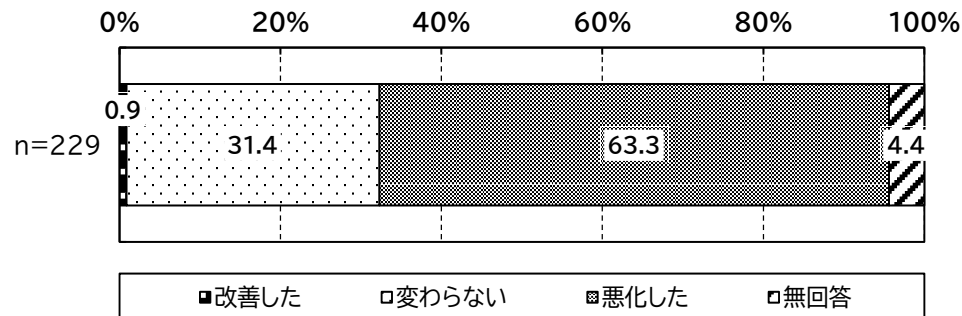
1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化(報告書P96・P198)

- 1年前と比較した、後発医薬品の供給体制の変化について、一般診療所調査では「改善した」が5.0%、「変わらない」が35.7%、「悪化した」が53.4%であった。
 病院調査では、「改善した」が0.9%、「変わらない」が31.4%、「悪化した」が63.3%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-26

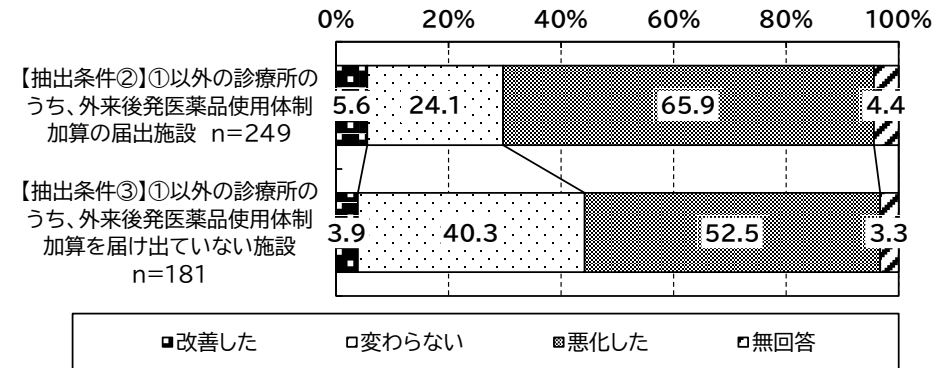


令和6年度調査(病院票) 図表5-18

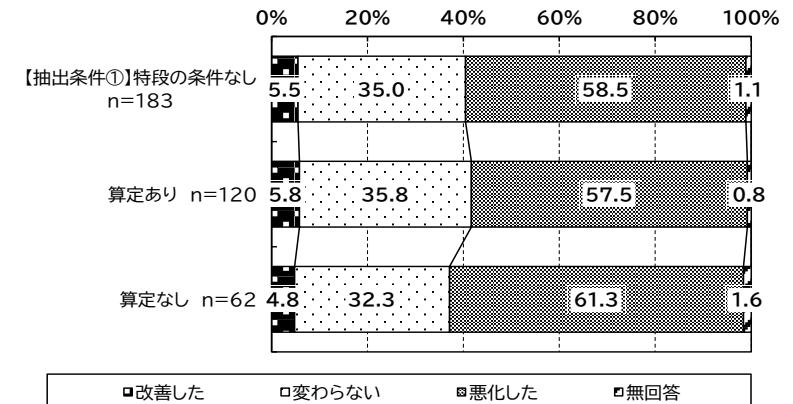


参考: 令和5年度調査(診療所票・病院票)図表3-48

※ 一般診療所



※ 病院 (後発医薬品使用体制加算の算定有無別)



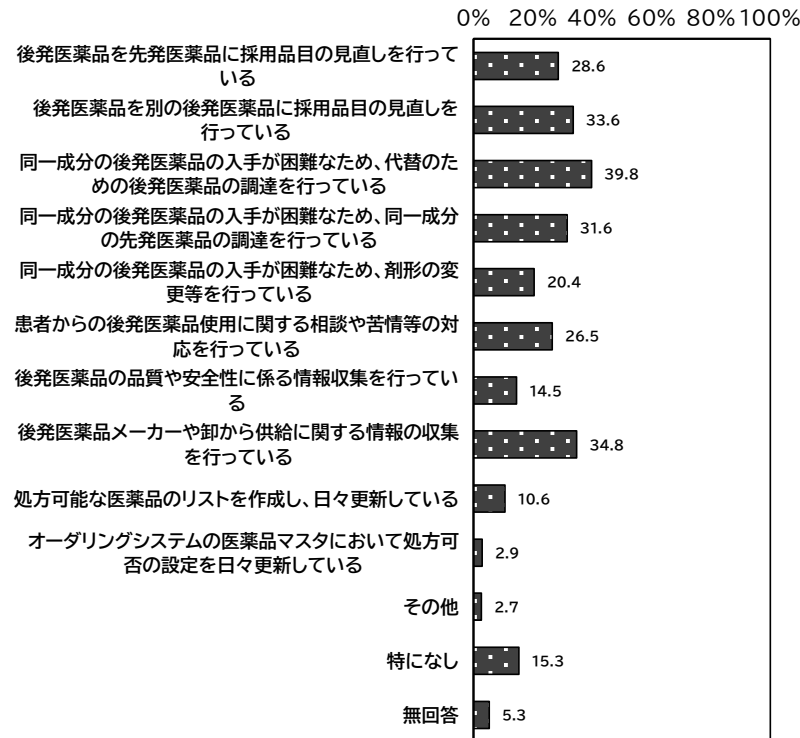
施設調査(一般診療所・病院)の結果④－1

医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響(複数回答)(報告書P98)

○ 一般診療所調査における、医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響についての回答は、「同一成分の後発医薬品の入手が困難なため、代替のための後発医薬品の調達を行った」が最も多く39.8%であった。

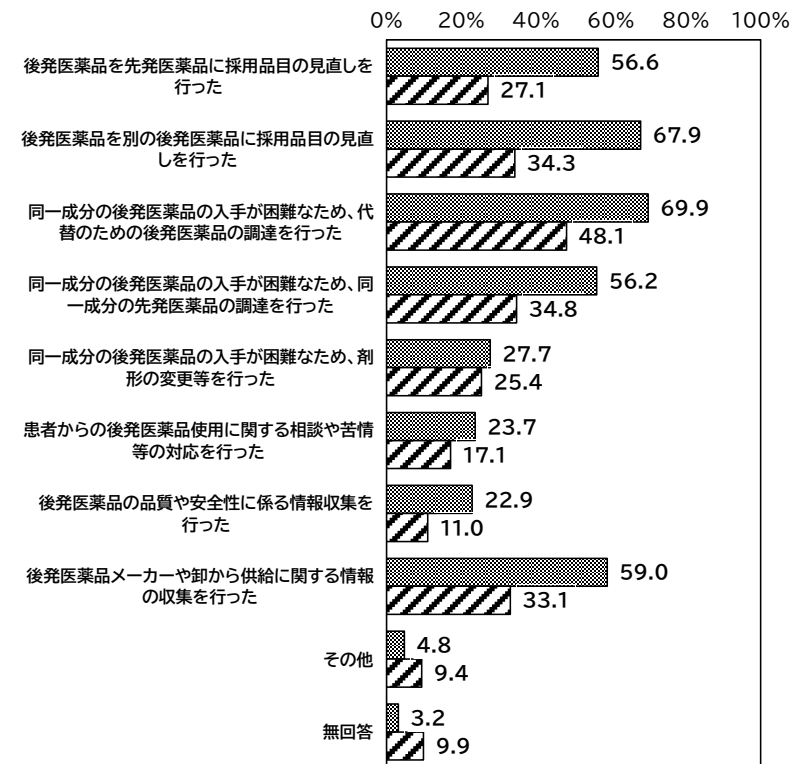
令和6年度調査(診療所票) 図表3-29

n=339



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-51

※ 一般診療所(複数回答)



■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=249

■【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出していない施設 n=181

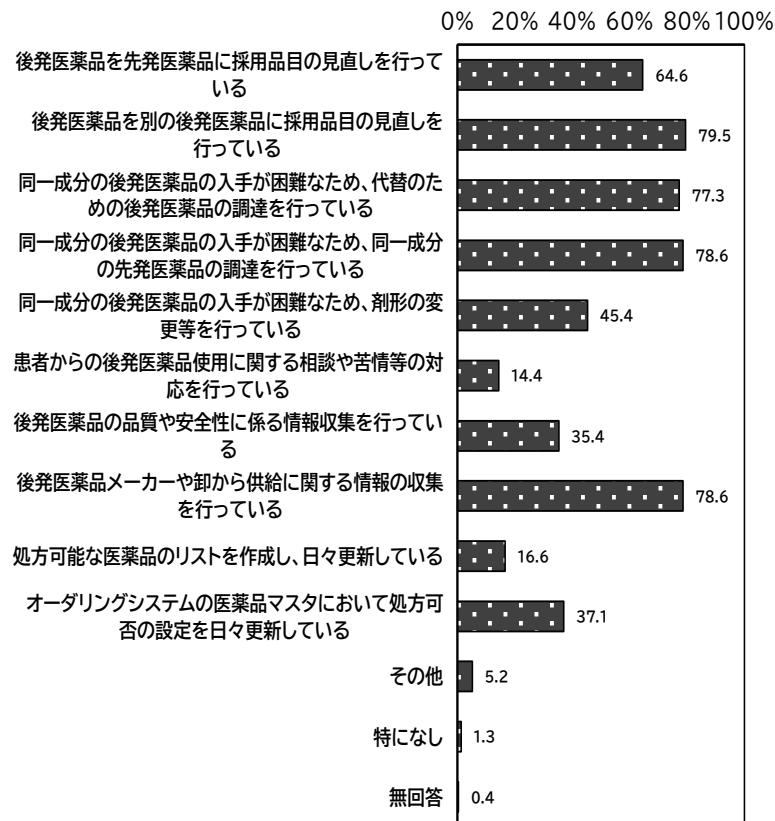
施設調査(一般診療所・病院)の結果④－2

医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響(複数回答)(報告書P201)

○ 病院調査における、医薬品の不安定な供給状況によって生じている影響(複数回答)についての回答は、「後発医薬品を別の後発医薬品に採用品目の見直しを行っている」が最も多く79.5%であった。

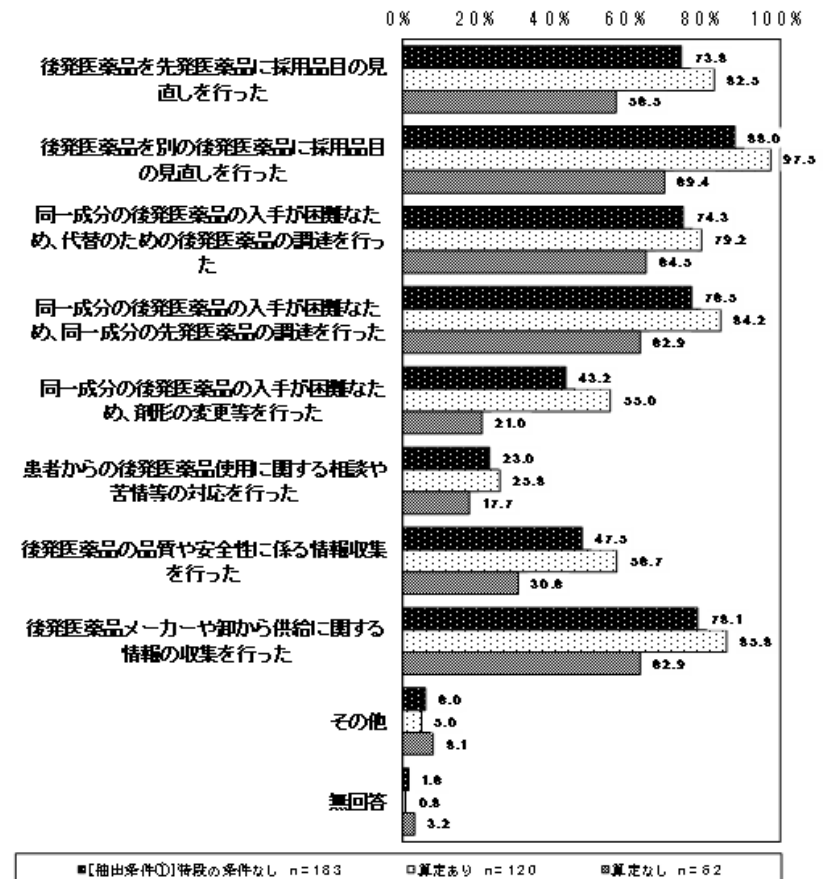
令和6年度調査(病院票) 図表5-21

n=229



参考: 令和5年度調査(病院票)図表3-51

※ 病院(複数回答) 複数回答(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

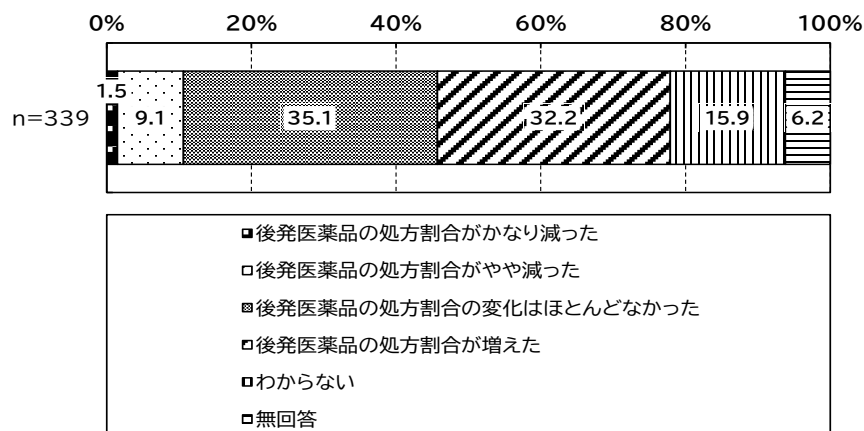


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑤

後発医薬品の処方割合の変化(報告書P100・P203)

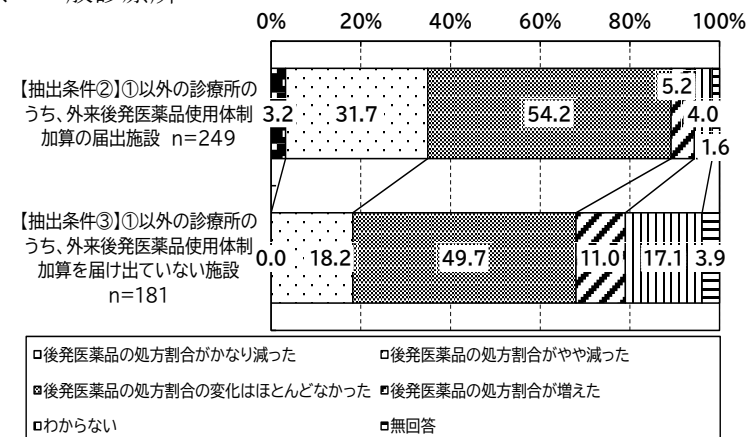
○ 後発医薬品の処方割合の変化について、一般診療所調査・病院調査とも「後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった」が最も多く、それぞれ35.1%・49.3%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-31

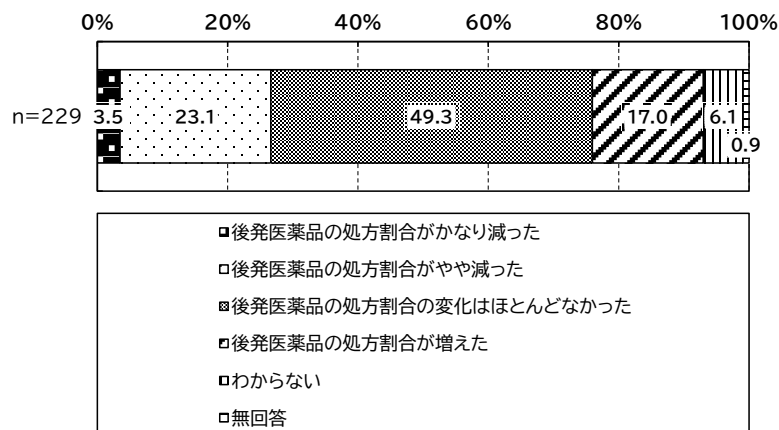


参考: 令和5年度調査(診療所票・病院票) 図表3-52

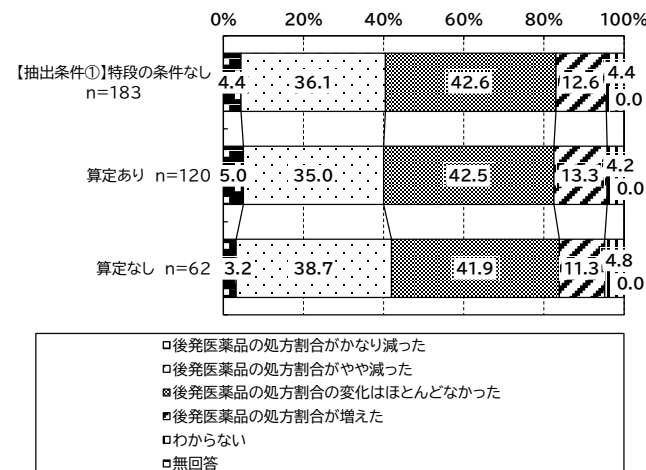
※ 一般診療所



令和6年度調査(病院票) 図表5-23



※ 病院(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

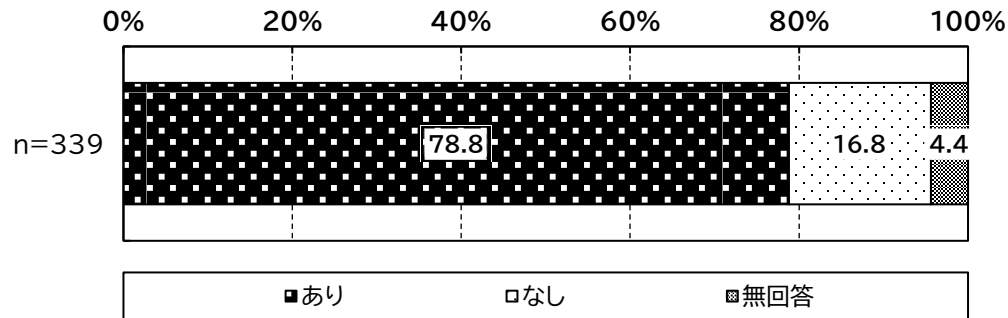


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑥

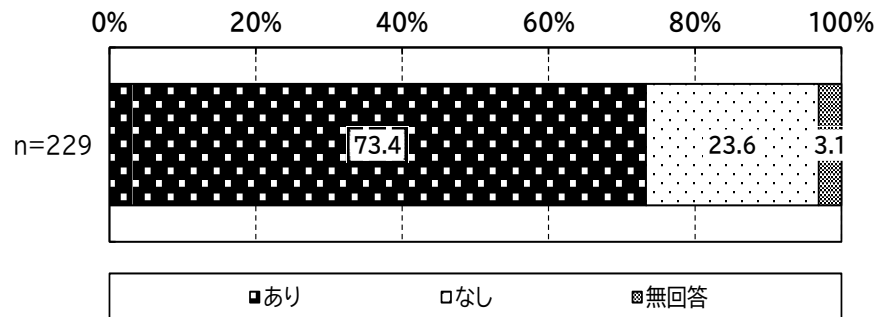
一般名処方による処方箋の発行有無(報告書P105・P213)

○ 一般名処方による処方箋の発行有無については、一般診療所調査では「あり」が78.8%、病院調査では「あり」は73.4%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-41

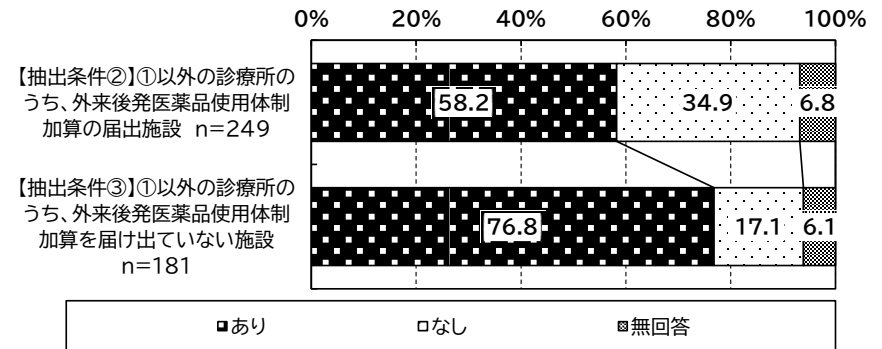


令和6年度調査(病院票) 図表5-39

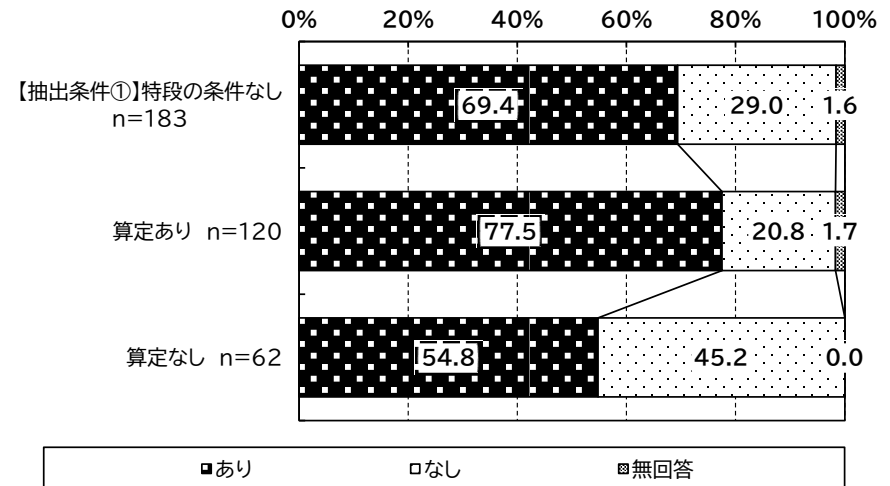


参考: 令和5年度調査(診療所票・病院票) 図表3-69

※ 一般診療所



※ 病院 (後発医薬品使用体制加算の算定有無別)

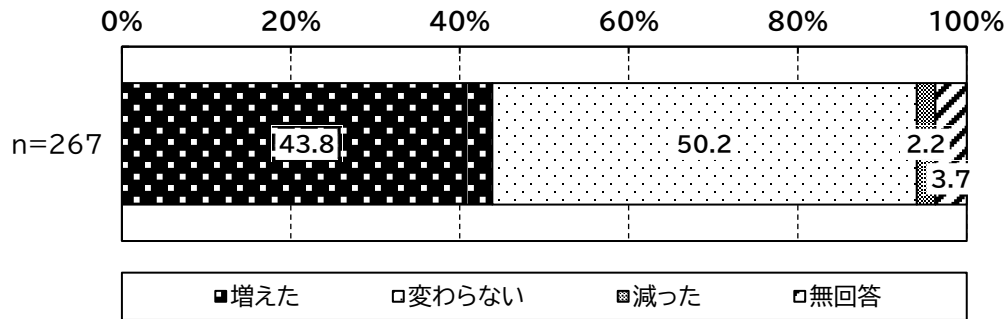


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑦

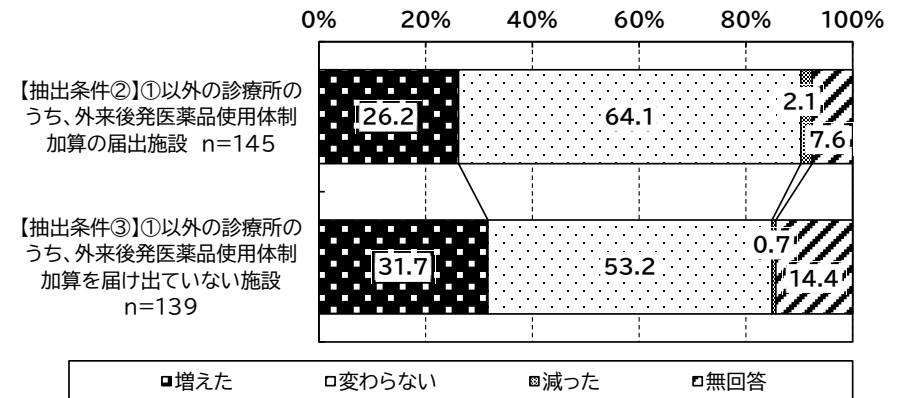
1年前と比較した一般名処方の件数の増減
(一般名処方による処方箋の発行あり)(報告書P106)

○ 一般診療所調査において一般名処方による処方箋の発行があると回答した場合、1年前と比較した一般名処方の件数の変化での一般名処方加算の算定回数を尋ねたところ、「増えた」が43.8%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-43



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-73



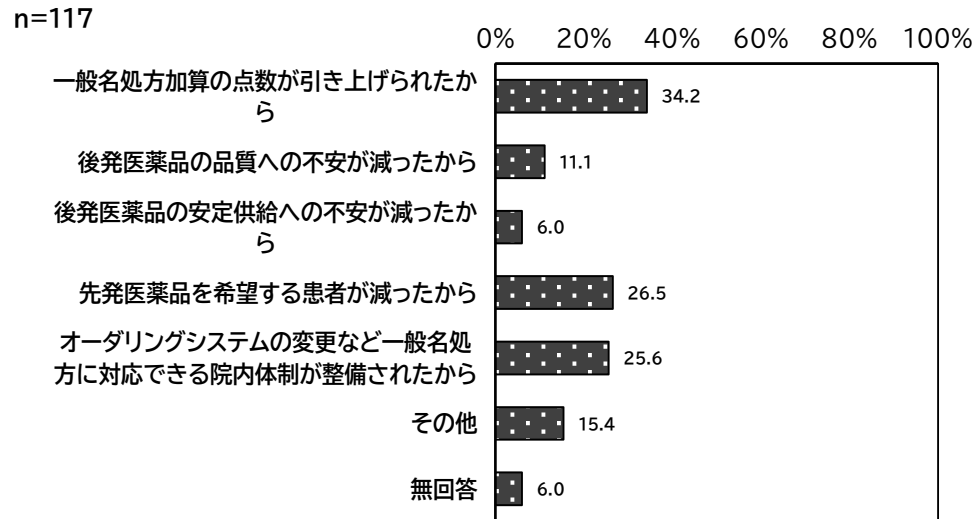
施設調査(一般診療所・病院)の結果⑧

一般名処方が増えた理由(複数回答)

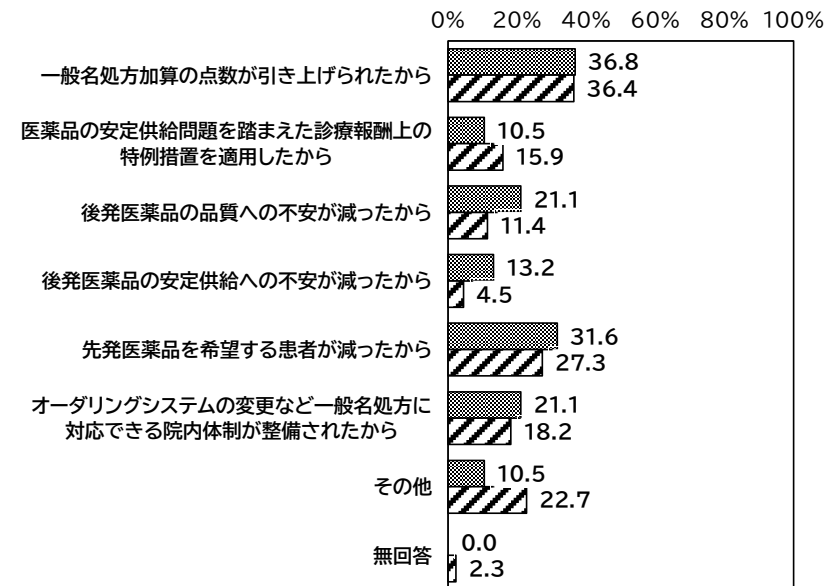
(1年前と比較して一般名処方の件数が「増えた」場合)(報告書P107)

○ 一般診療所調査において、1年前と比較して一般名処方の件数が「増えた」と回答した場合の理由を尋ねたところ、「一般名処方加算の点数が引き上げられたから」が34.2%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-44



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-73



■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=38

■【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出していない施設 n=44

施設調査(一般診療所・病院)の結果⑨

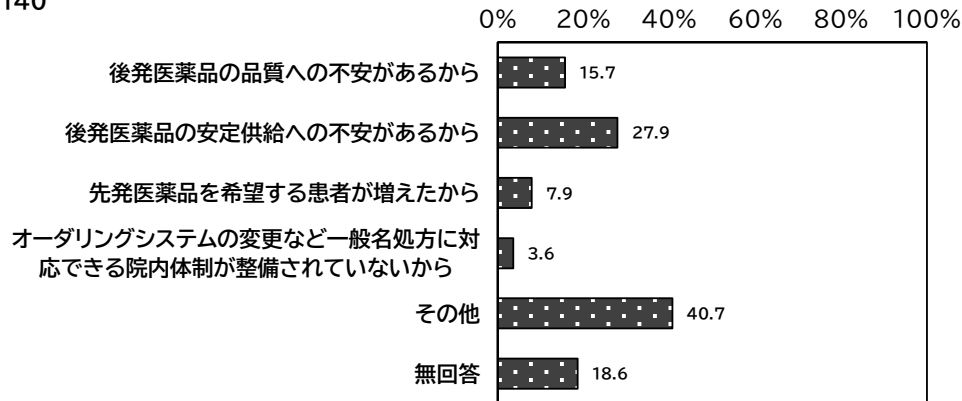
一般名処方が増えない理由(複数回答)

(1年前と比較して一般名処方の件数が「変わらない」「減った」場合)(報告書P108)

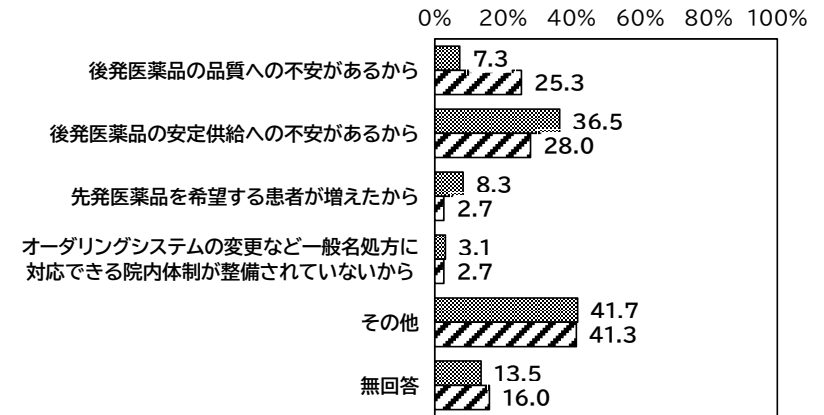
○ 一般診療所調査において、1年前と比較して一般名処方の件数が「変わらない」「減った」と回答した理由を尋ねたところ、「後発医薬品の安定供給への不安があるから」が27.9%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-45

n=140



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-75



■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=96

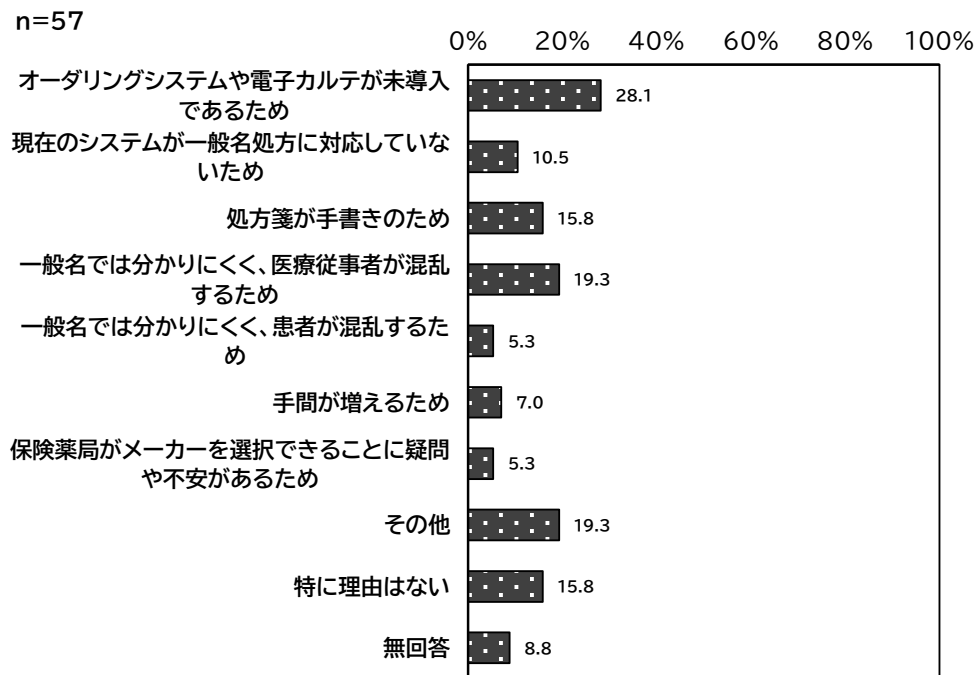
■【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出していない施設 n=75

施設調査(一般診療所・病院)の結果⑩－1

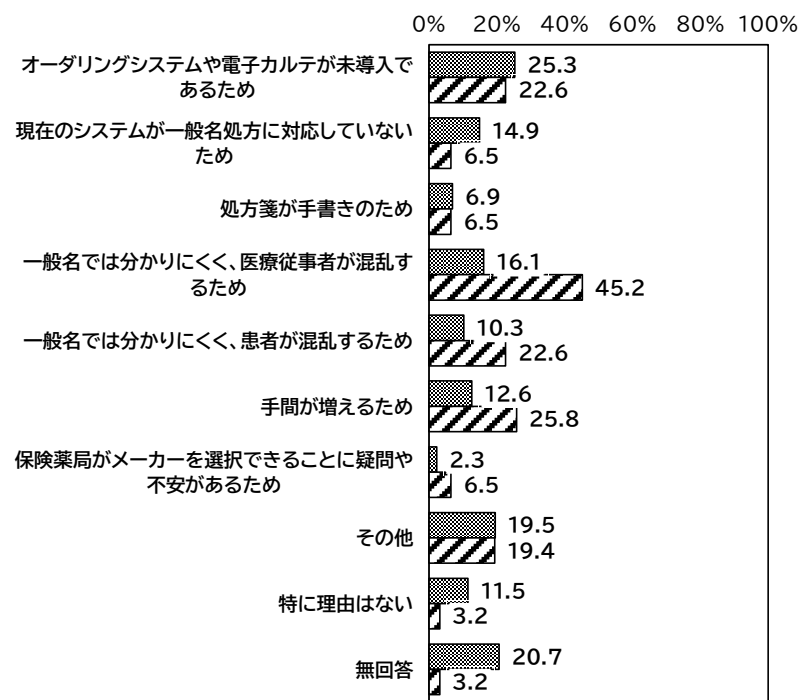
一般名処方による処方箋を発行していない理由(複数回答)
(一般名処方による処方箋の発行なし)(報告書P109)

○ 一般診療所調査において、一般名処方による処方箋の発行がない理由については、「オーダリングシステムや電子カルテが未導入であるため」が最も多く28.1%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3－46



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3－76



■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=87

□【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出していない施設 n=31

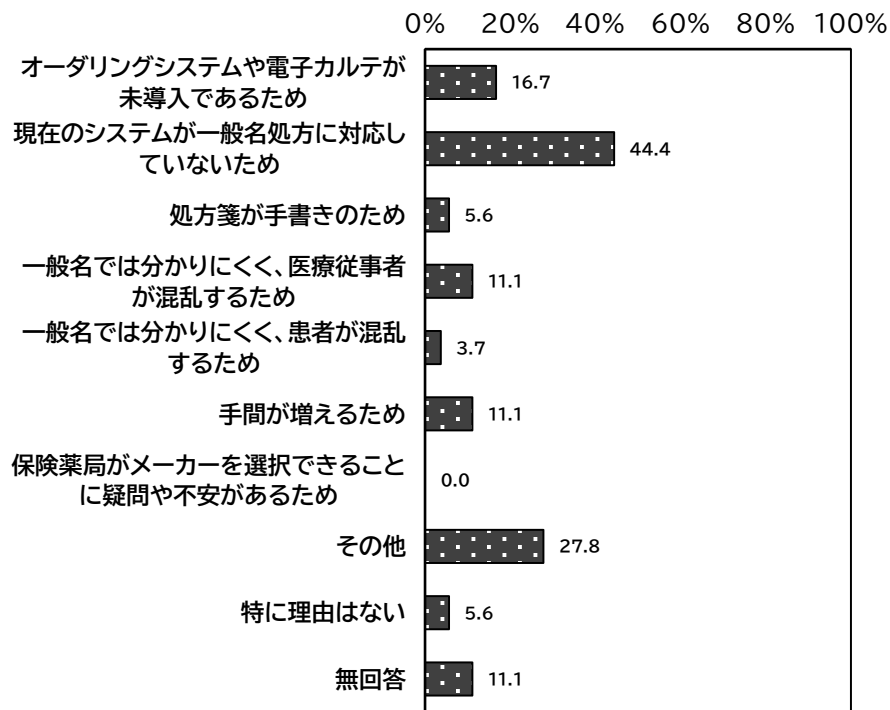
施設調査(一般診療所・病院)の結果⑩-2

一般名処方による処方箋を発行していない理由(複数回答)
(一般名処方による処方箋の発行なし)(報告書P214)

○ 病院調査において、一般名処方による処方箋の発行がないと回答した場合、発行していない理由については、「現在のシステムが一般名処方に対応していないため」が最も多く44.4%であった。

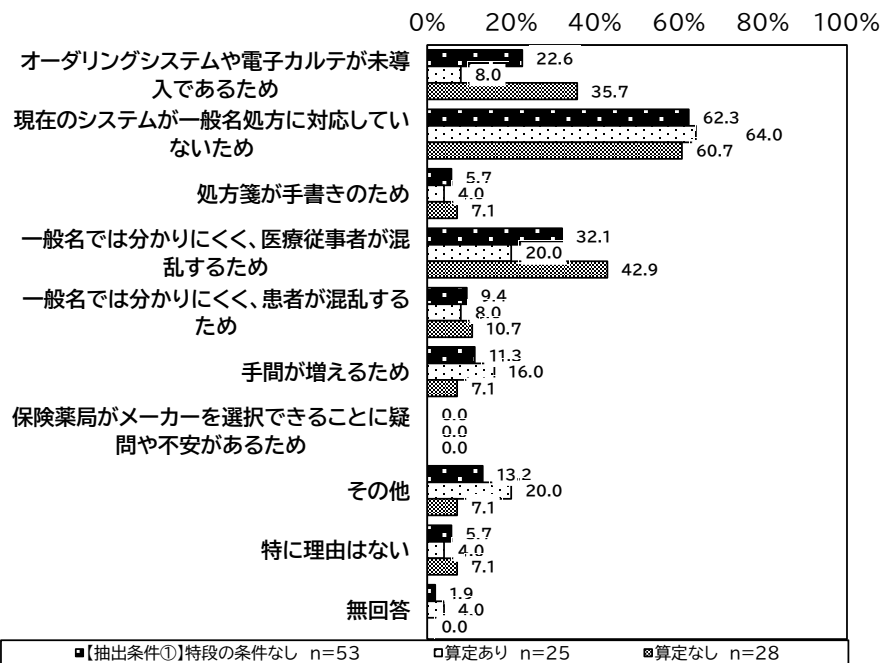
令和6年度調査(病院票) 図表5-41

n=54



参考: 令和5年度調査(病院票)図表3-76

※ 病院(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)



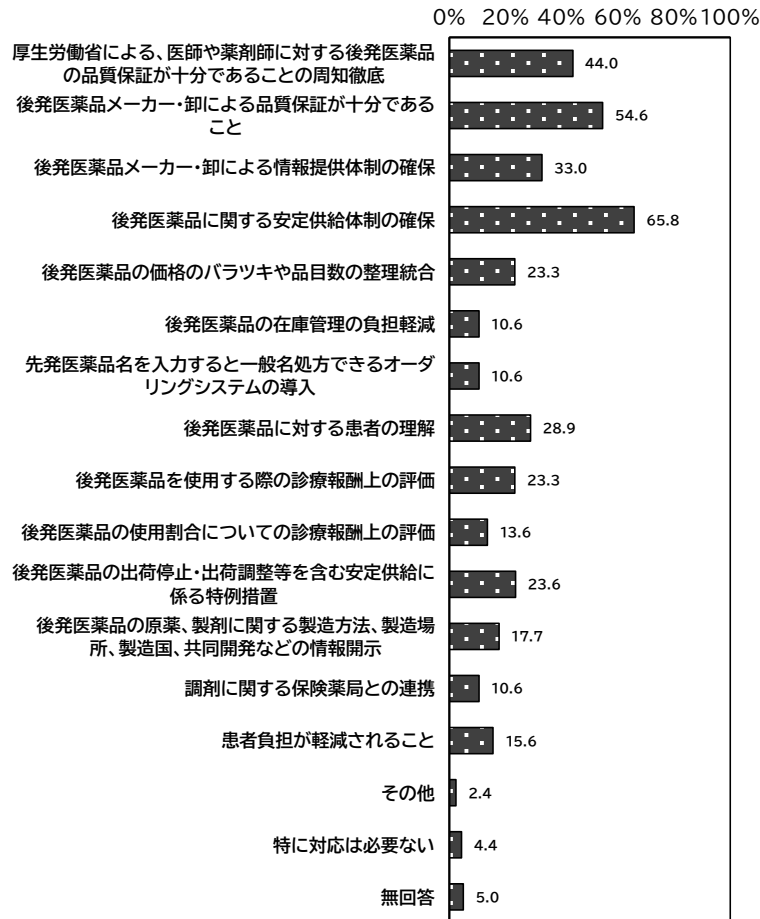
施設調査(一般診療所・病院)の結果⑪－1

後発医薬品の使用を進めるために必要な対応(複数回答)(報告書P111)

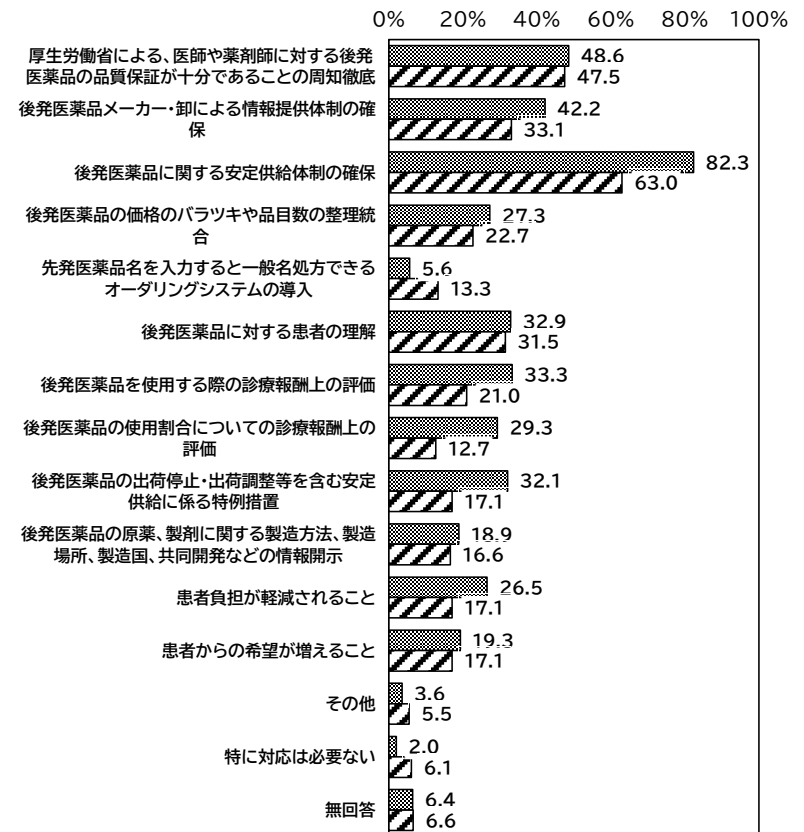
○ 一般診療所調査において、後発医薬品の使用促進に向けた対応方法を尋ねたところ、「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が最も多く65.8%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3－48

n=339



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3－78



■【抽出条件②】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算の届出施設 n=249

■【抽出条件③】①以外の診療所のうち、外来後発医薬品使用体制加算を届け出していない施設 n=181

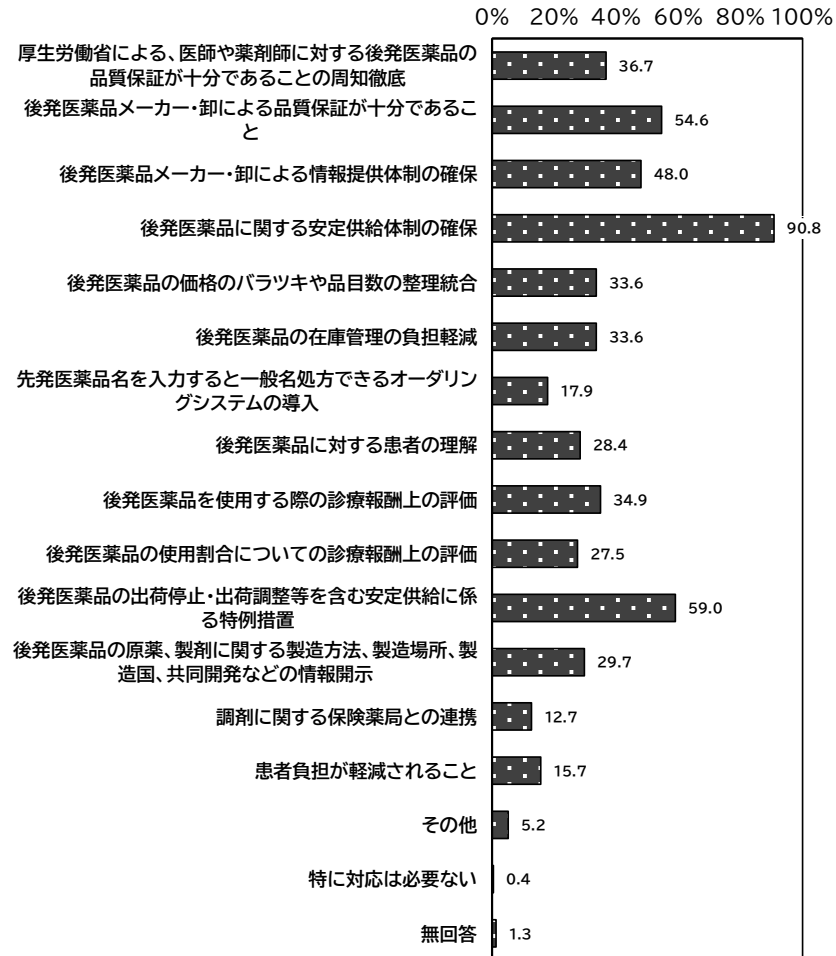
施設調査(一般診療所・病院)の結果⑪-2

後発医薬品の使用を進めるために必要な対応(複数回答)(報告書P216)

○ 病院調査において、後発医薬品の使用促進に向けた対応方法を尋ねたところ、「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が最も多く90.8%であった。

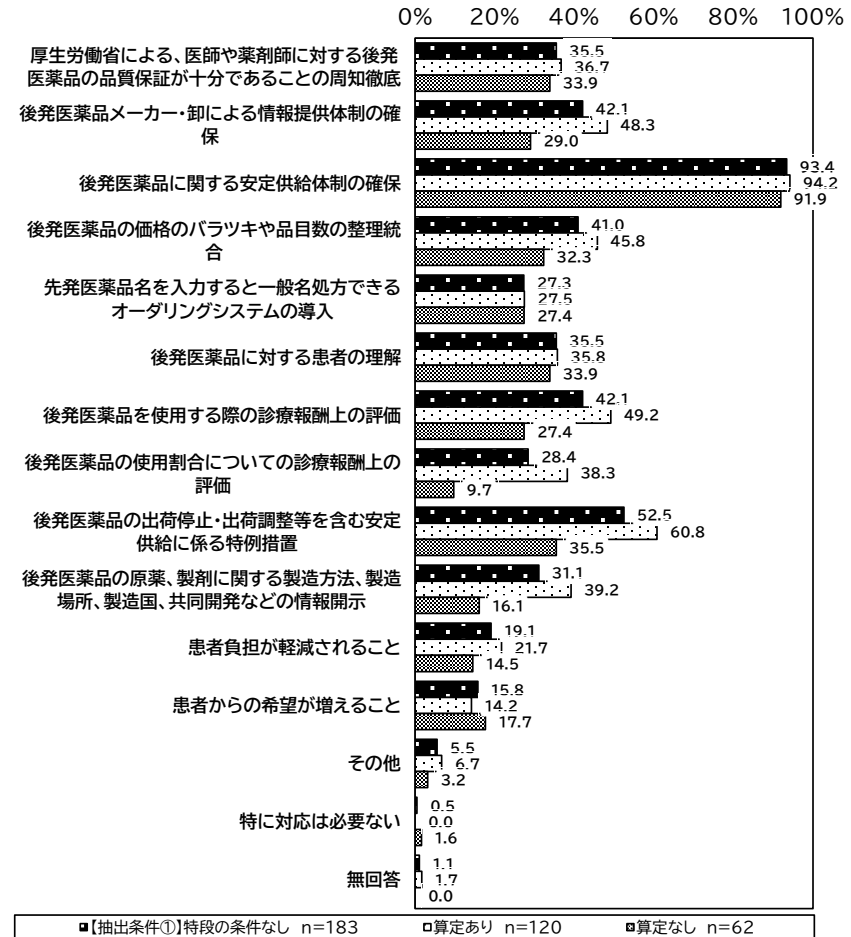
令和6年度調査(病院票) 図表5-43

n=229



参考: 令和5年度調査(病院票)図表3-78

※ 病院 複数回答(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)



■【抽出条件①】特段の条件なし n=183 □算定あり n=120 ▣算定なし n=62

施設調査(一般診療所・病院)の結果⑫-1

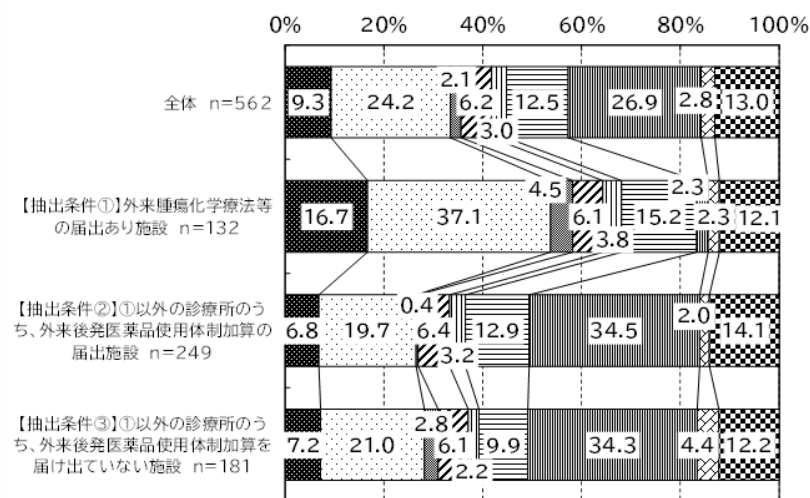
施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方に最も近いもの(報告書P119)

○ 一般診療所調査において、バイオ後続品の使用に関する考え方について、一般診療所全体で見た場合、「品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する」が最も多く、30.5%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-55

	全体		バイオ後続品導入初期加算算定あり		バイオ後続品導入初期加算算定なし	
	調査数	%	調査数	%	調査数	%
バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方(使用)する	13	22.0	5	38.5	8	20.0
品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する	18	30.5	4	30.8	12	30.0
安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する	4	6.8	2	15.4	2	5.0
品目によってはバイオ後続品を積極的に処方(使用)する	5	8.5	1	7.7	2	5.0
先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方(使用)する	4	6.8	-	-	3	7.5
いわゆるバイオAGであれば積極的に使用する	8	13.6	-	-	8	20.0
バイオ後続品を積極的に処方(使用)していない	4	6.8	-	-	3	7.5
バイオ医薬品(先行バイオ医薬品、バイオ後続品)の対象となる患者がいない	-	-	-	-	-	-
その他	3	5.1	1	7.7	2	5.0
無回答	-	-	-	-	-	-

参考: 令和5年度調査(診療所票) 図表3-56

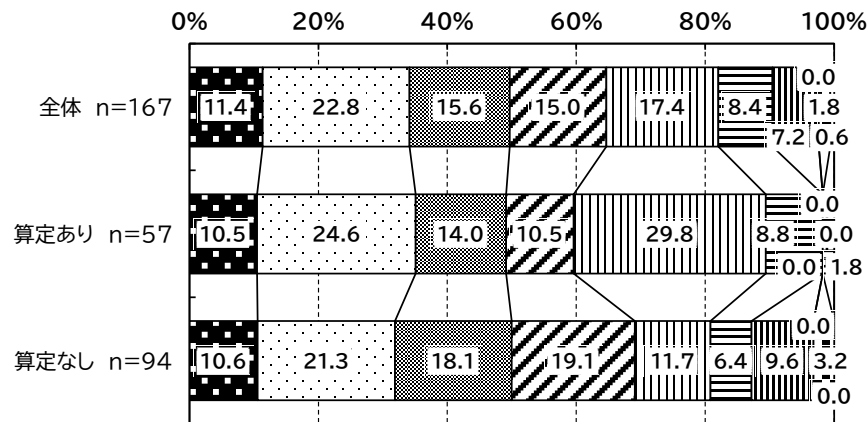


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑫-2

施設におけるバイオ後続品の使用に関する考え方に最も近いもの(報告書P223)

○ 病院調査において、バイオ後続品の使用に関する考え方について、病院全体で見た場合、「品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する」が最も多く22.8%であった。

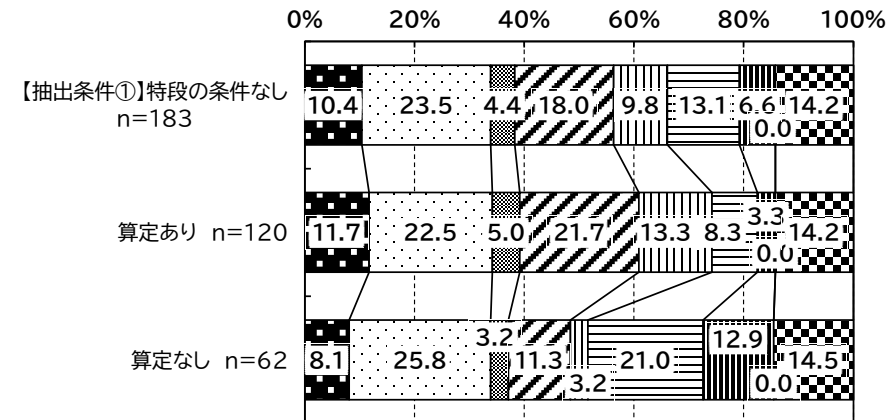
令和6年度調査(病院票) 図表5-50



- バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方(使用)する
- 品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する
- 安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する
- 品目によってはバイオ後続品を積極的に処方(使用)する
- 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方(使用)する
- いわゆるバイオAGであれば積極的に使用する
- バイオ後続品を積極的に処方(使用)していない
- バイオ医薬品(先行バイオ医薬品、バイオ後続品)の対象となる患者がいらない
- その他
- 無回答

参考: 令和5年度調査(病院票)図表5-51

※ 病院(後発医薬品使用体制加算の算定有無別)



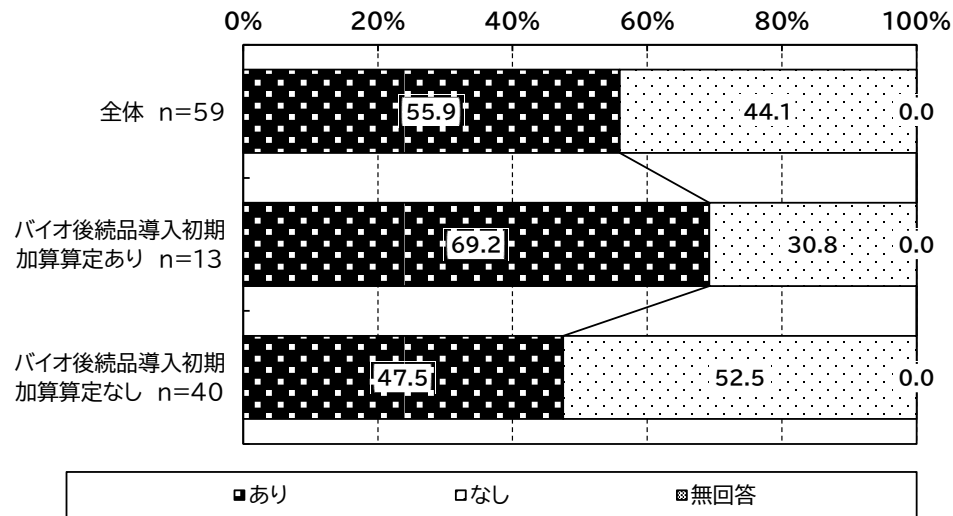
- バイオ後続品が発売されているものは、積極的に処方(使用)する
- 品質や有効性、安全性に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する
- 安定供給に疑問がないバイオ後続品は積極的に処方(使用)する
- 品目によってはバイオ後続品を積極的に処方(使用)する
- 先行バイオ医薬品とバイオ後続品の適応症が同じ場合は積極的に処方(使用)する
- バイオ後続品を積極的に処方(使用)していない
- バイオ医薬品(先行バイオ医薬品、バイオ後続品)の対象となる患者がいらない
- その他
- 無回答

施設調査(一般診療所・病院)の結果⑬-1

バイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無
(バイオ医薬品の処方(使用)あり)(報告書P125)

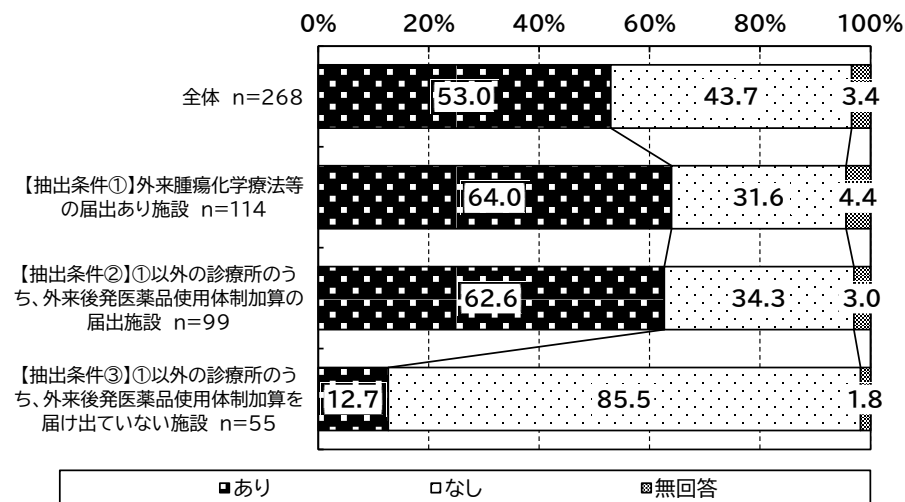
○ 一般診療所調査において、バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)ありと回答した場合におけるバイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無については、バイオ後続品の院内処方「あり」の割合は、一般診療所調査全体(59施設)で55.9%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3-61



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3-93

バイオ後続品の院内処方の有無 (バイオ医薬品 (先行バイオ医薬品・バイオ後続品) の処方 (使用) あり)

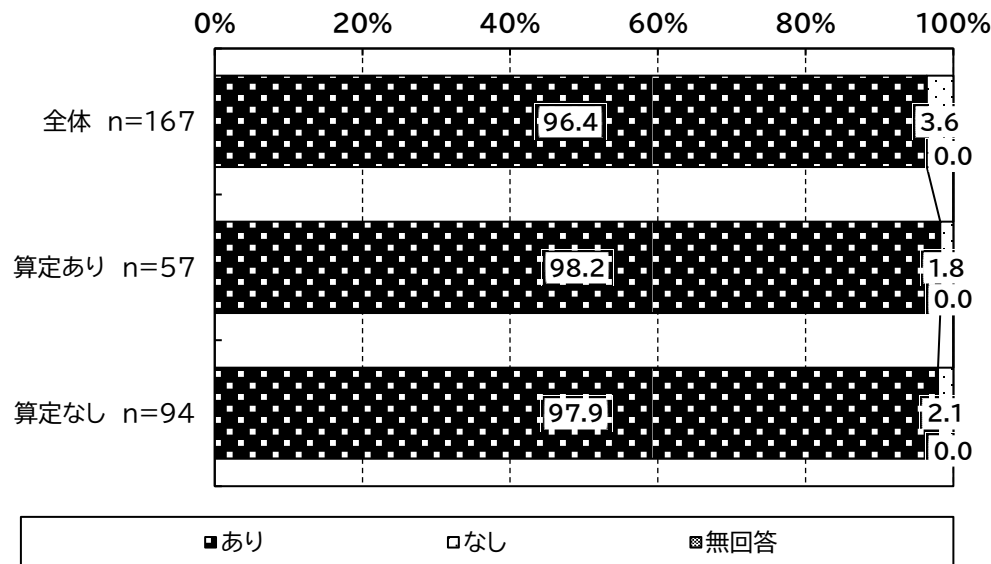


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑬-2

バイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無 (バイオ医薬品の処方(使用)あり)(報告書P225)

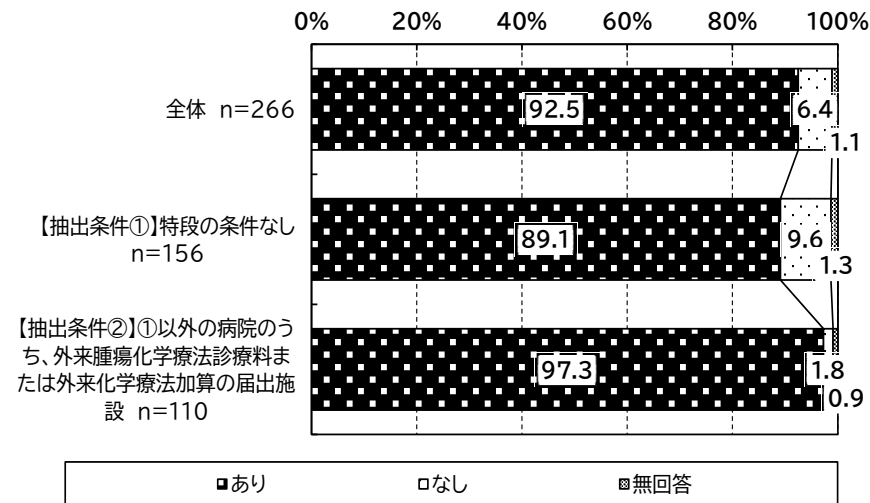
○ 病院調査において、バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)ありと回答した場合におけるバイオ後続品の院内処方(入院または院内の外来)の有無について、バイオ後続品の院内処方「あり」の割合は、病院調査全体(167施設)では96.4%であった。

令和6年度調査(病院票) 図表5-52



参考: 令和5年度調査(病院票)図表3-93

バイオ後続品の院内処方の有無 (バイオ医薬品 (先行バイオ医薬品・バイオ後続品) の処方 (使用) あり)

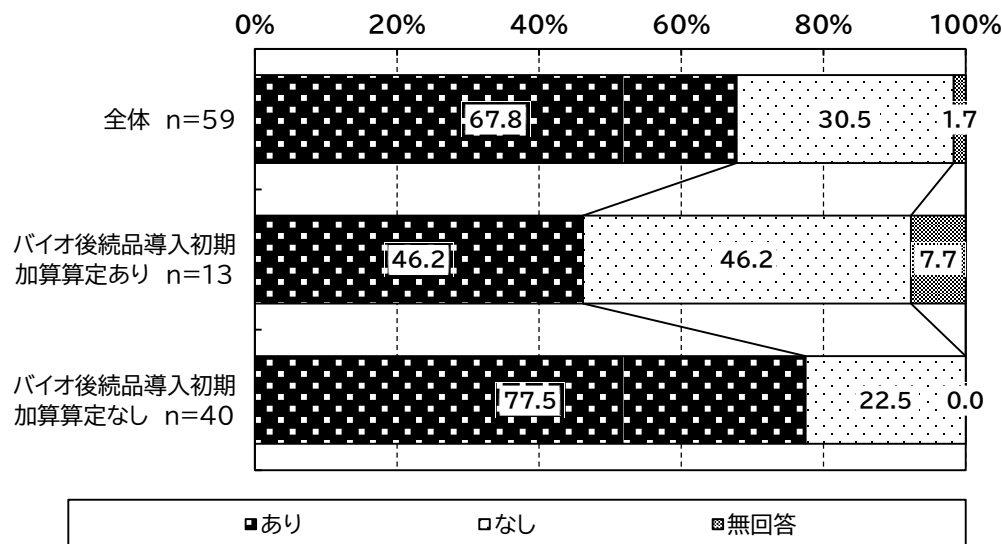


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑭－1

バイオ後続品の院外処方の有無(バイオ医薬品の処方(使用)あり)(報告書P126)

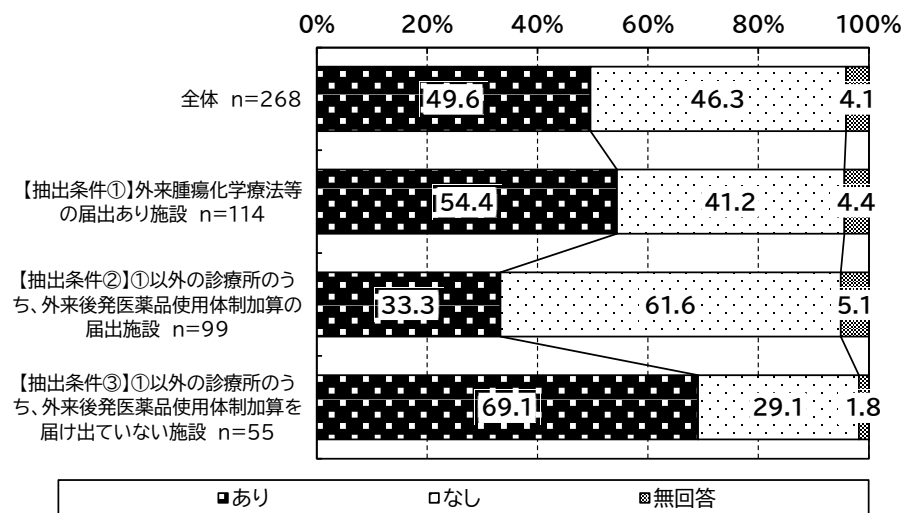
○ 一般診療所調査において、バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)ありと回答した場合におけるバイオ後続品の院外処方の有無について、バイオ後続品の院外処方「あり」の割合は、一般診療所調査全体(59施設)では67.8%であった。

令和6年度調査(診療所票) 図表3－62



参考: 令和5年度調査(診療所票)図表3－93

バイオ後続品の院外処方の有無(バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)あり)

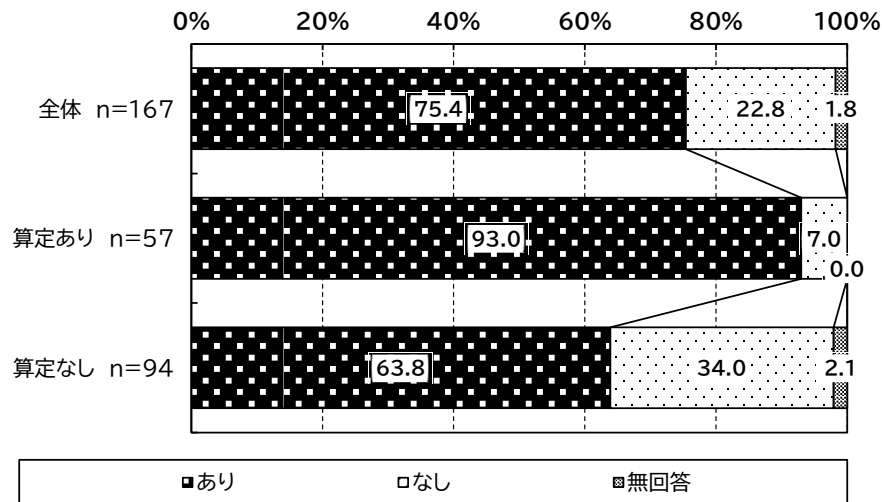


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑭-2

バイオ後続品の院外処方の有無(バイオ医薬品の処方(使用)あり)(報告書P226)

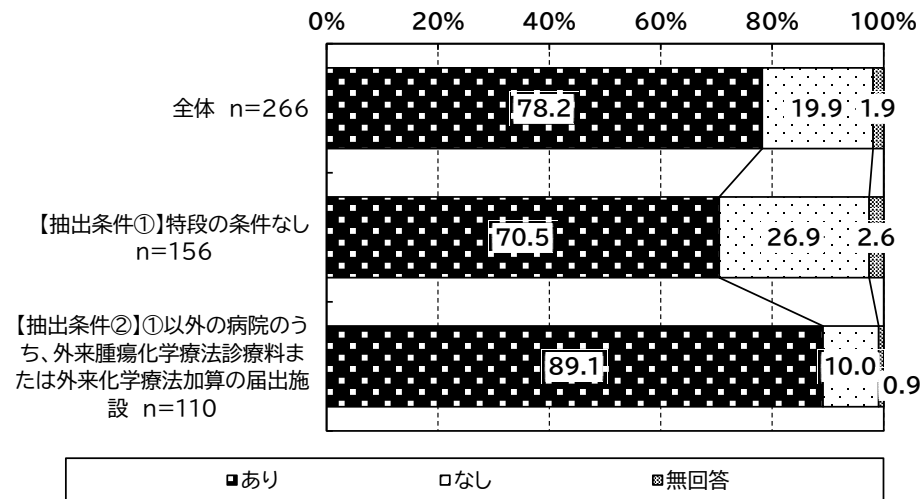
○ 病院調査において、バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)ありと回答した場合におけるバイオ後続品の院外処方の有無について、バイオ後続品の院外処方「あり」の割合は、病院調査全体(167施設)では75.4%であった。

令和6年度調査(病院票) 図表5-53



参考: 令和5年度調査(病院票)図表3-94

バイオ後続品の院外処方の有無(バイオ医薬品(先行バイオ医薬品・バイオ後続品)の処方(使用)あり)

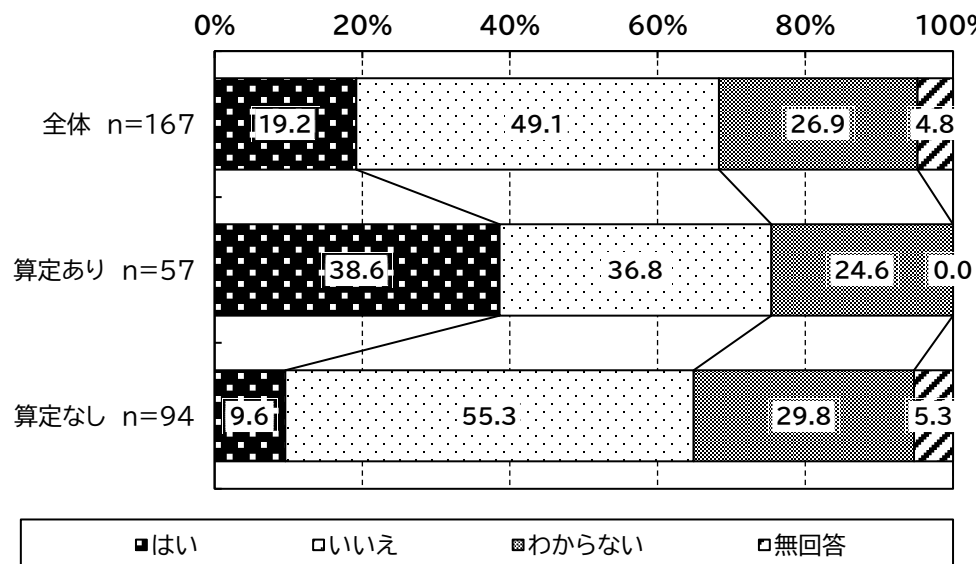


施設調査(一般診療所・病院)の結果⑮

バイオ後続品使用体制加算が新設されたことでバイオ後続品の使用件数が増加したか
(院内・院外いずれかでバイオ後続品の処方あり)(新)(報告書P227)

- 病院調査において、院内・院外いずれかでバイオ後続品処方ありと回答した場合において、バイオ後続品導入初期加算が新設されたことによるバイオ後続品の使用件数が増えたかを尋ねたところ、病院調査全体では「はい」(増えた)が19.2%であった。

令和6年度調査(病院票) 図表5-54

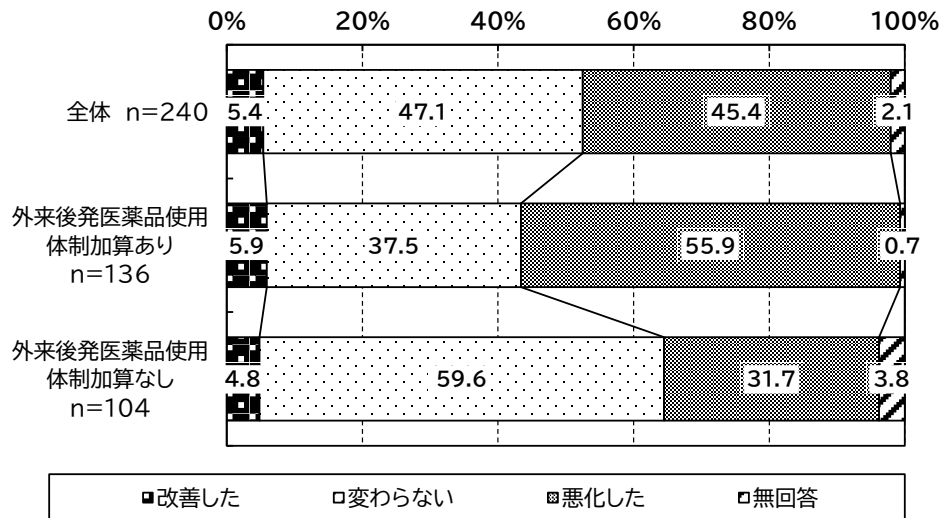


施設調査(歯科診療所)の結果①

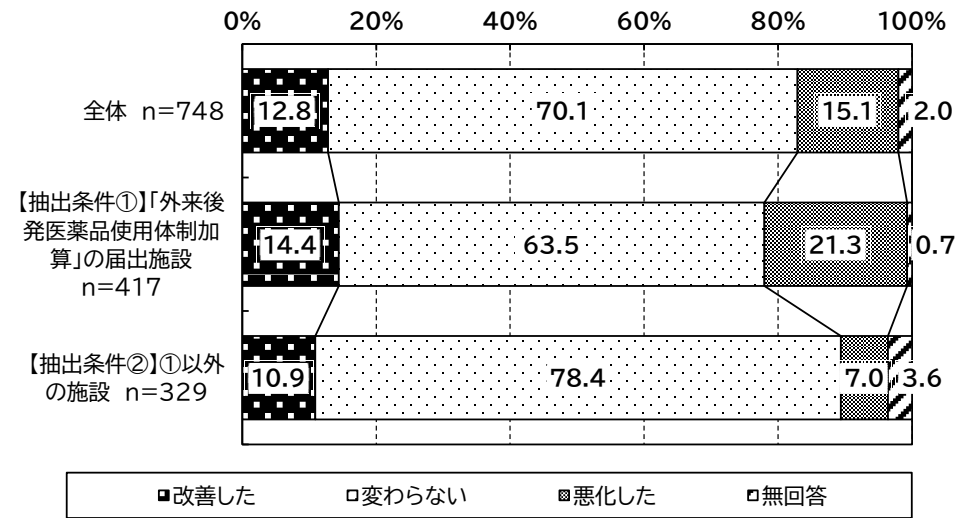
1年前と比較した後発医薬品の供給体制の変化(P159)

○ 歯科診療所調査における、1年前(令和5年11月1日)と比較した、後発医薬品の供給体制の変化について尋ねたところ、歯科診療所全体では「変わらない」が47.1%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-14



参考: 令和5年度調査(歯科診療所票)図表3-48

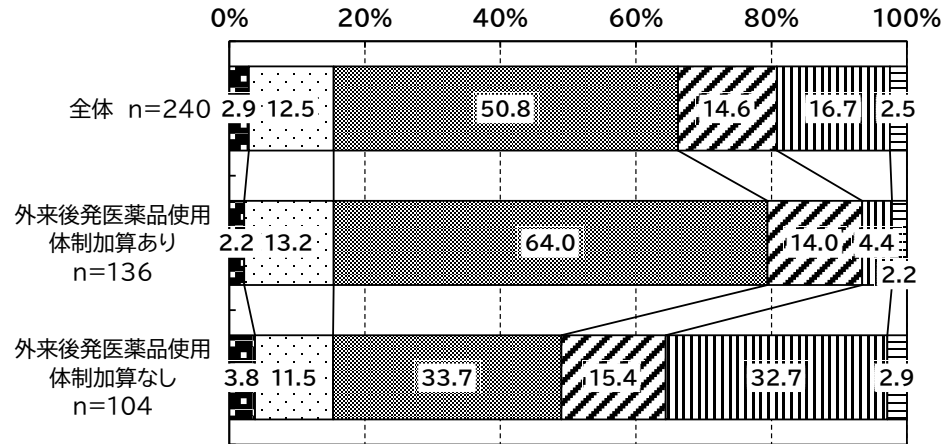


施設調査(歯科診療所)の結果②

後発医薬品の処方割合の変化(P160)

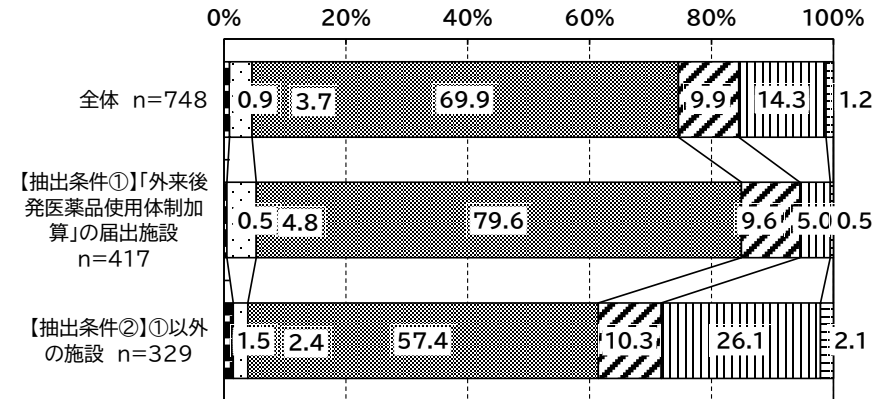
○ 歯科診療所調査における、後発医薬品の処方割合の変化について尋ねたところ、以下のとおりであった。歯科診療所全体で「後発医薬品の処方割合がかなり減った」と「後発医薬品の処方割合がやや減った」の合計割合は15.4%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-15



- 後発医薬品の処方割合がかなり減った
- 後発医薬品の処方割合がやや減った
- 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった
- 後発医薬品の処方割合が増えた
- わからない
- 無回答

参考: 令和5年度調査(歯科診療所票) 図表3-52



- 後発医薬品の処方割合がかなり減った
- 後発医薬品の処方割合がやや減った
- 後発医薬品の処方割合の変化はほとんどなかった
- 後発医薬品の処方割合が増えた
- わからない
- 無回答

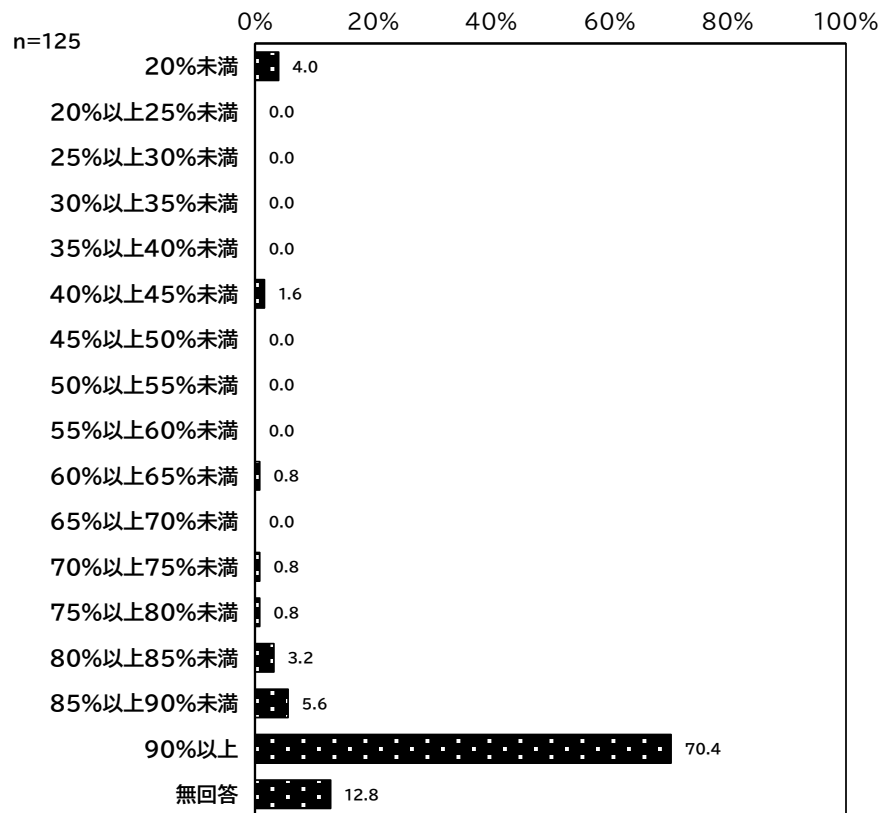
施設調査(歯科診療所)の結果③

後発医薬品使用割合＜数量ベース＞

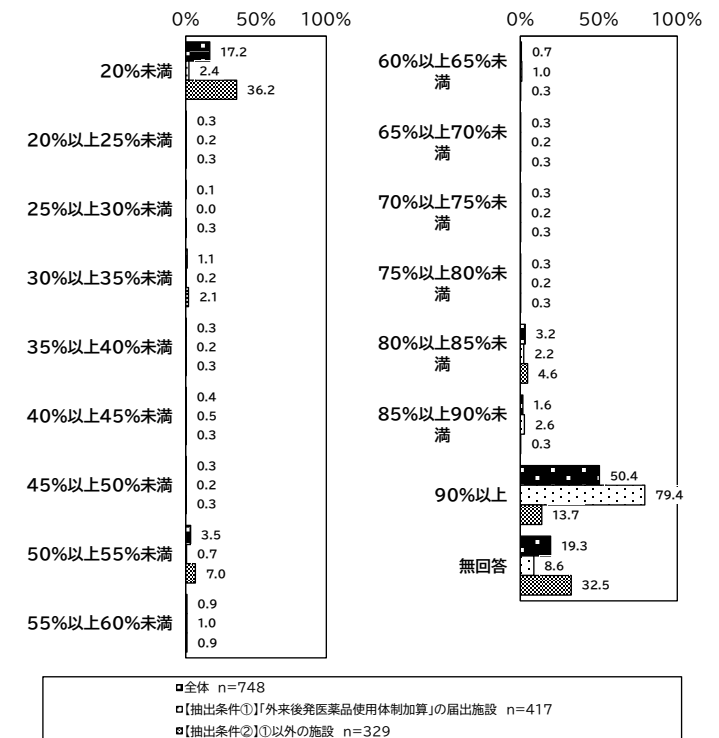
(外来後発医薬品使用体制加算の算定がある人)(P164)

○ 歯科診療所調査における、外来後発医薬品使用体制加算を算定している者の「90%」以上の後発医薬品使用割合は70.4%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-19



参考: 令和5年度調査(歯科診療所票)図表3-30

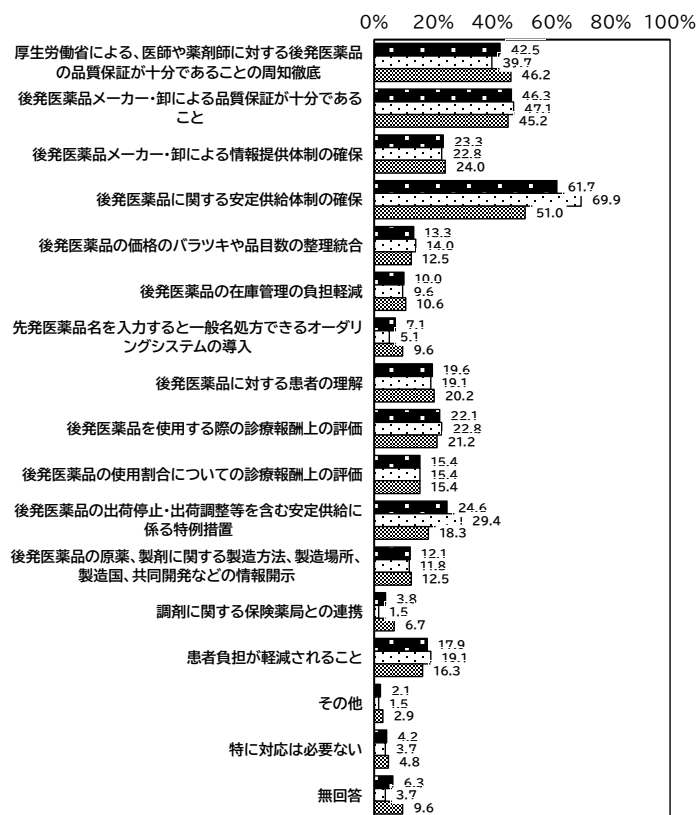


施設調査(歯科診療所)の結果④

後発医薬品の使用を進めるために必要な対応(複数回答)(P173)

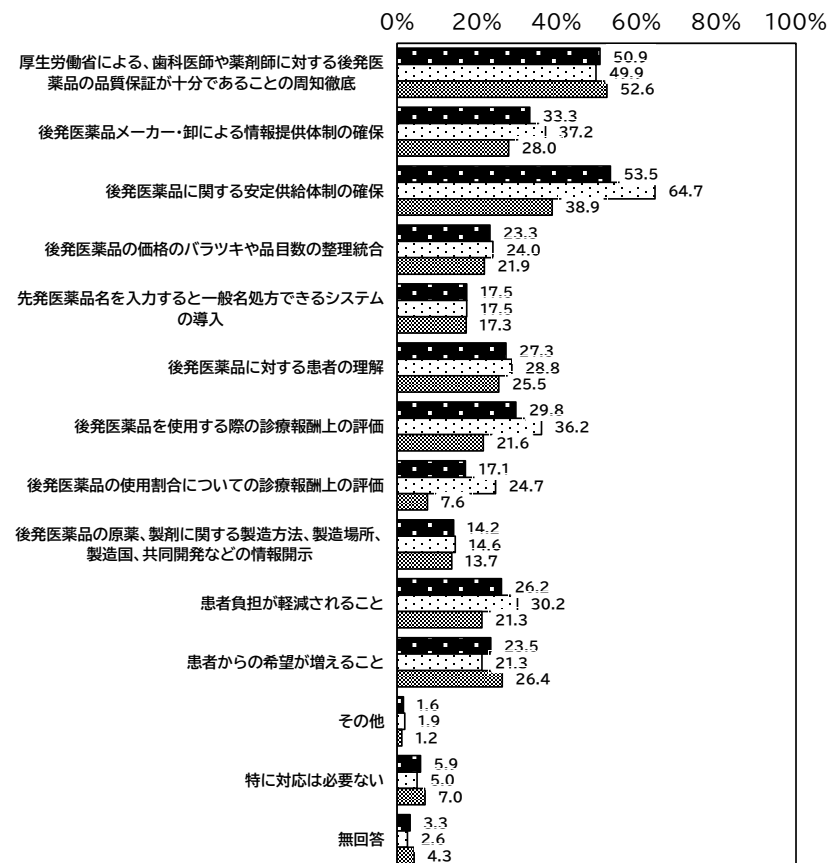
○ 歯科診療所調査において、後発医薬品の使用促進に向けた対応方法を尋ねたところ、あてはまるもの(複数回答)については以下のとおりであった。歯科診療所調査全体では「後発医薬品に関する安定供給体制の確保」が61.7%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-29



■全体 n=240
□外来後発医薬品使用体制加算あり n=136
■外来後発医薬品使用体制加算なし n=104

参考: 令和5年度調査(歯科診療所票)図表3-78



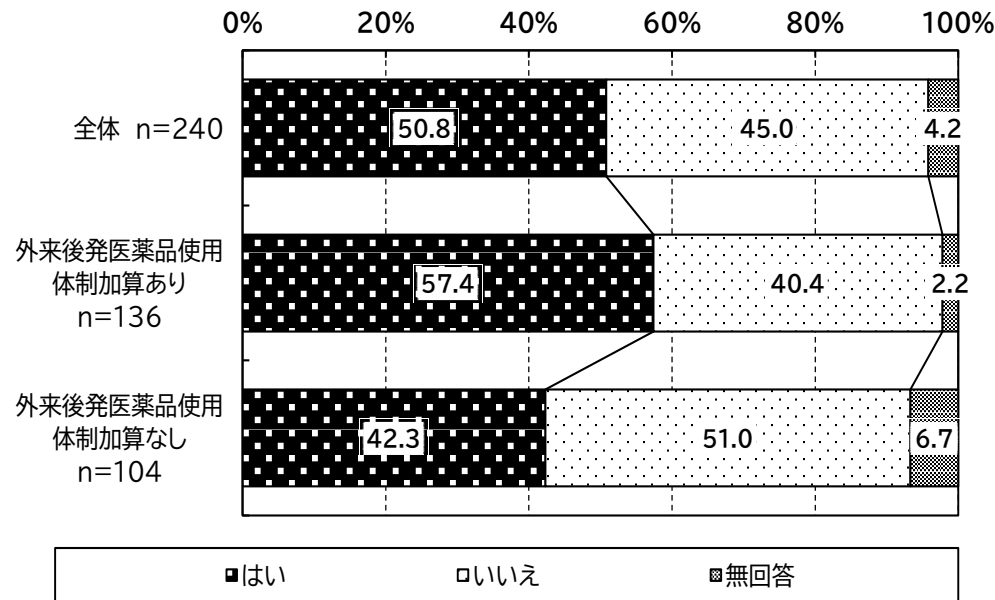
■全体 n=748
□【抽出条件①】「外来後発医薬品使用体制加算」の届出施設 n=417
■【抽出条件②】①以外の施設 n=329

施設調査(歯科診療所)の結果⑤

長期収載品の選定療養費についての認知の有無(新)(P175)

○ 歯科診療所調査において、長期収載品の選定療養費についての認知有無を尋ねたところ以下のとおりであった。歯科診療所調査全体では「はい」が50.8%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-31

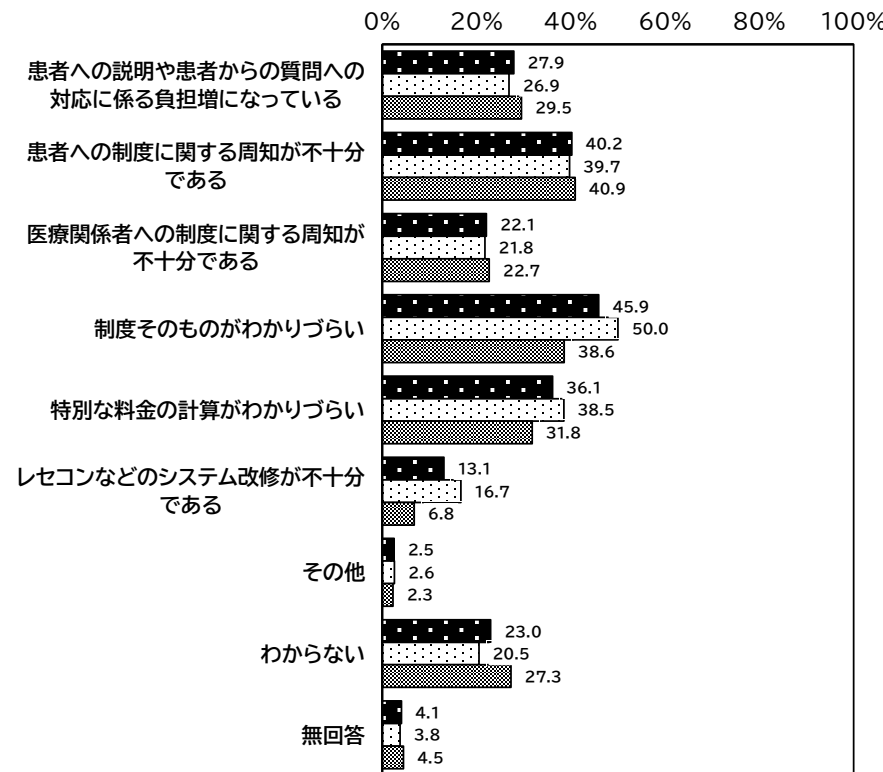


施設調査(歯科診療所)の結果⑥

長期収載品の選定療養による影響や課題(複数回答)(新)(P179)

○ 歯科診療所調査において、長期収載品の選定療養による影響や課題(複数回答)を尋ねたところ以下のとおりであった。歯科診療所調査全体(122件)では「制度そのものがわかりづらい」という意見が45.9%であった。

令和6年度調査(歯科診療所票) 図表4-37



■全体 n=122

□外来後発医薬品使用体制加算あり n=78

▣外来後発医薬品使用体制加算なし n=44

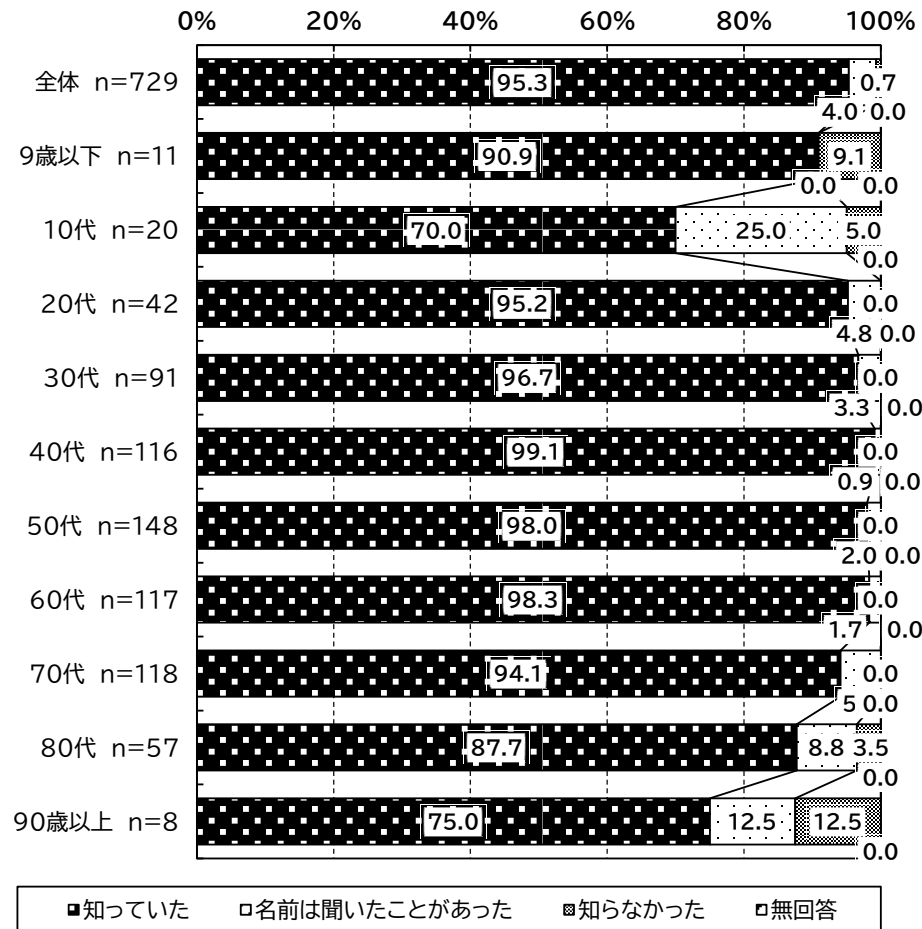
患者調査の結果①

ジェネリック医薬品に対する認知度(報告書P305・P370)

○ジェネリック医薬品に対する認知度については、郵送調査では「知っていた」が95.3%、インターネット調査では「知っていた」が92.6%であった。

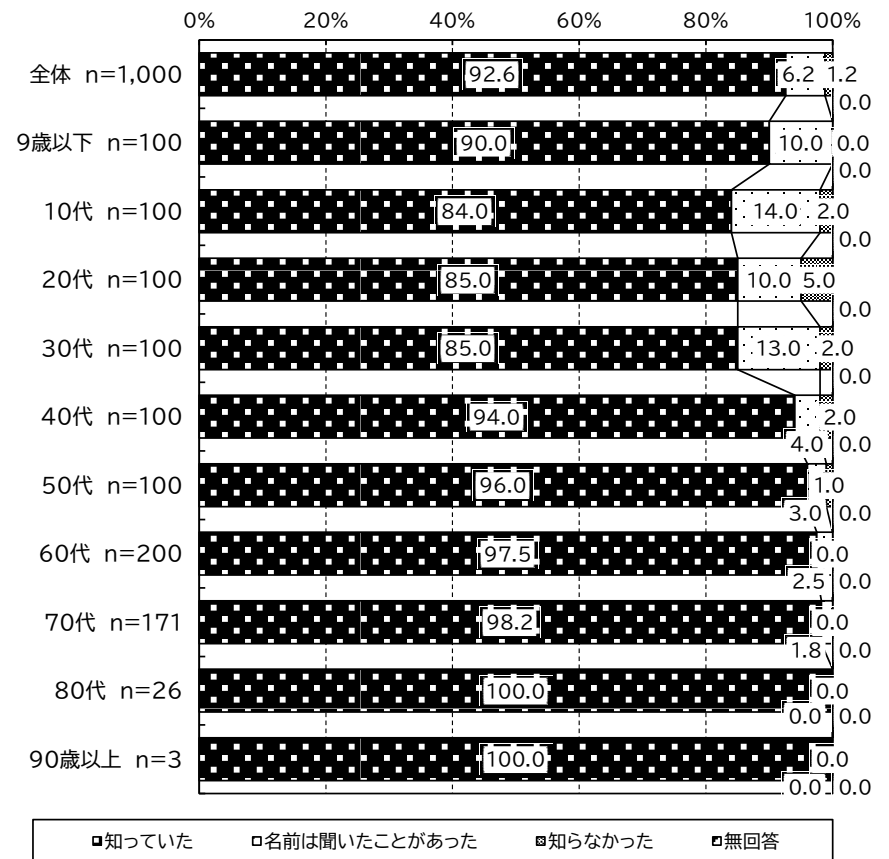
郵送調査

図表 7-17 ジェネリック医薬品に対する認知度(年代別)



インターネット調査

図表8-17 ジェネリック医薬品に対する認知度(年代別)



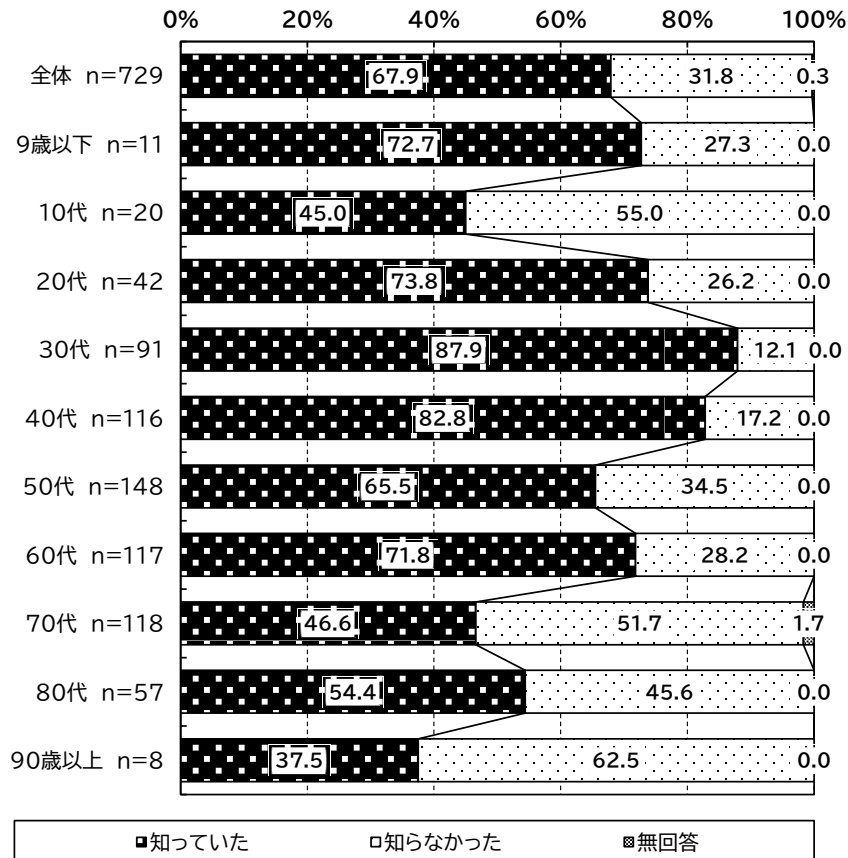
患者調査の結果②

特別の料金の認知(年代別)(新)(報告書P323・P389)

○ 特別の料金に対する認知度については、郵送調査では「知っていた」が67.9%、インターネット調査では「知っていた」が31.9%であった。

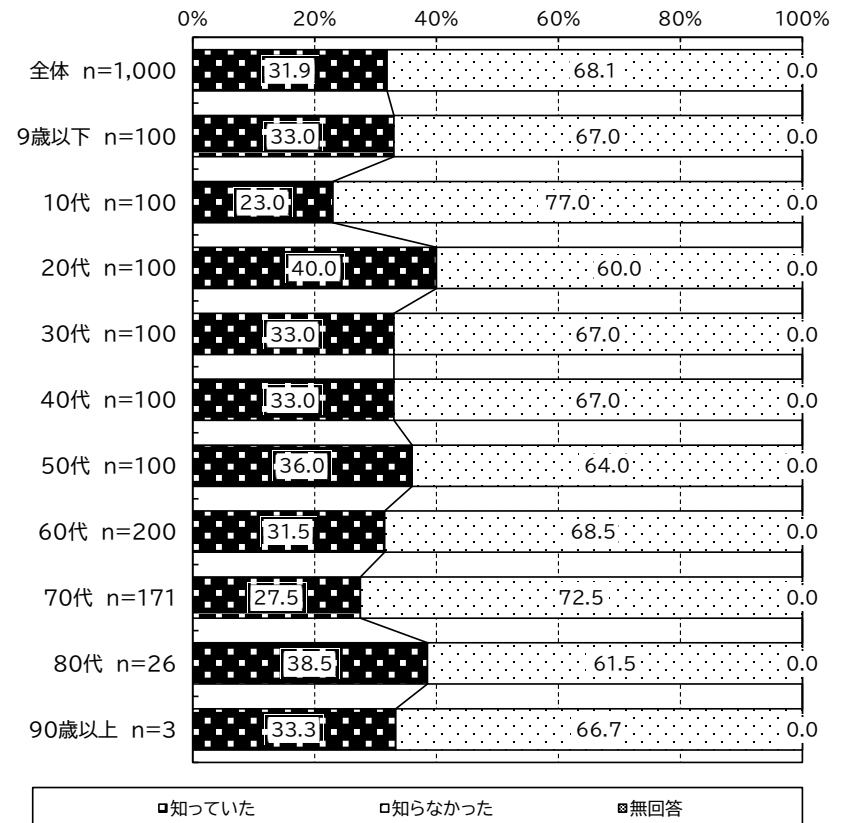
郵送調査

図表 7-36 特別の料金の認知(年代別)



インターネット調査

図表 8-37 特別の料金の認知(年代別)



患者調査の結果③ー1

先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度
(特別の料金を支払った経験のある人)(郵送調査)(新)(報告書P330)

○ ジェネリック医薬品に切り替える特別の料金の程度については、郵送調査では、「特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する」が最も多く28.3%であった。

郵送調査

図表 7-43 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度
(特別の料金を支払った経験のある人、年代別)

	全体	9歳以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上
調査数	46	1	—	1	6	4	9	10	13	1	—
特別の料金が現在の2倍程度になる場合※ 特別の料金がジェネリック医薬品価格差の半額となる場合	15.2	—	—	—	33.3	—	—	20.0	23.1	—	—
特別の料金が現在の3倍程度になる場合	2.2	—	—	—	—	—	—	—	7.7	—	—
特別の料金が現在の4倍程度になる場合※ 特別の料金がジェネリック医薬品価格差の全額となる場合	4.3	—	—	—	16.7	—	—	—	7.7	—	—
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬品を選択する	28.3	—	—	—	50.0	50.0	11.1	10.0	38.5	—	—
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	13.0	—	—	—	—	25.0	22.2	20.0	7.7	—	—
その他・わからない	37.0	—	—	—	—	25.0	66.7	50.0	15.4	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

患者調査の結果③ー2

先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度
(特別の料金を支払った経験のある人)(インターネット調査)(新)(報告書P397)

○ ジェネリック医薬品に切り替える特別の料金の程度については、インターネット調査では、「特別の料金が現在の2倍程度になる場合」が最も多く32.0%であった。

インターネット調査

図表 8-45 先発医薬品からジェネリック医薬品に切り替えようと思う特別の料金の程度
(特別の料金を支払った経験のある人、年代別)

	全体	9歳 以下	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳 以上
調査数	100	2	10	15	9	10	9	21	20	3	1
特別の料金が現在の2倍程度になる場合※ 特別の料金がジェネリック医薬品価格差の 半額となる場合	32.0	50.0	50.0	40.0	33.3	20.0	44.4	28.6	20.0	33.3	—
特別の料金が現在の3倍程度になる場合	16.0	—	10.0	40.0	11.1	10.0	11.1	19.0	5.0	33.3	—
特別の料金が現在の4倍程度になる場合※ 特別の料金がジェネリック医薬品価格差の 全額となる場合	4.0	—	—	—	33.3	10.0	—	—	—	—	—
特別の料金がいくらであろうと、先発医薬 品を選択する	16.0	—	20.0	6.7	11.1	30.0	11.1	19.0	15.0	—	—
現在の特別の料金でもそのうち切り替える	7.0	—	—	6.7	11.1	—	—	9.5	10.0	33.3	—
その他・わからない	25.0	50.0	20.0	6.7	—	30.0	33.3	23.8	50.0	—	—
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

患者調査の結果④

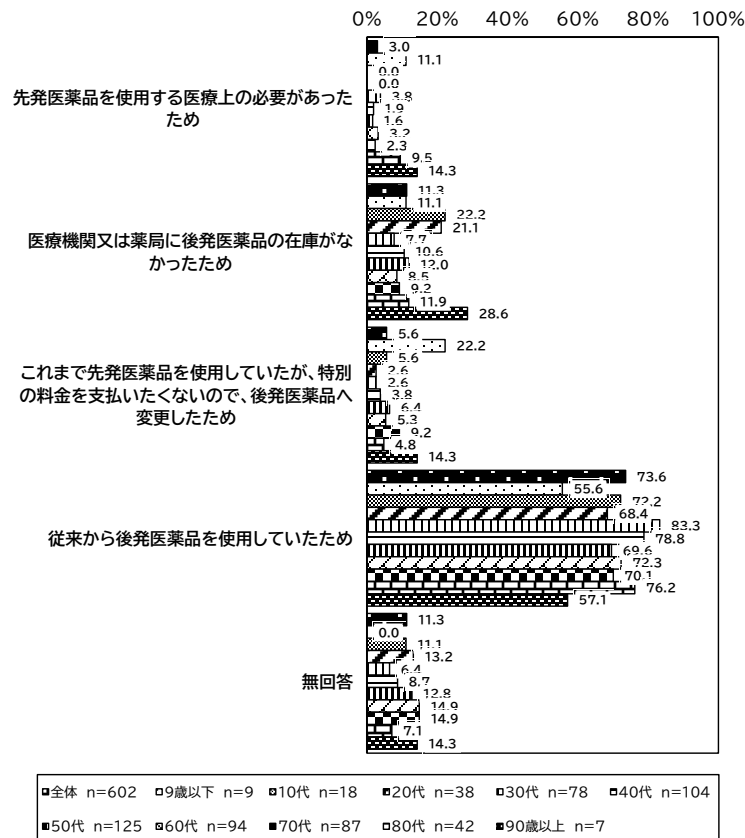
特別の料金を支払っていない理由(複数回答)

(特別の料金を支払った経験のある人)(新)(報告書P332・P400)

○ 特別の料金を支払っていない理由については、郵送調査・インターネット調査とも「従来から後発医薬品を使用していたため」が最も多く、その割合はそれぞれ73.6%、66.4%であった。

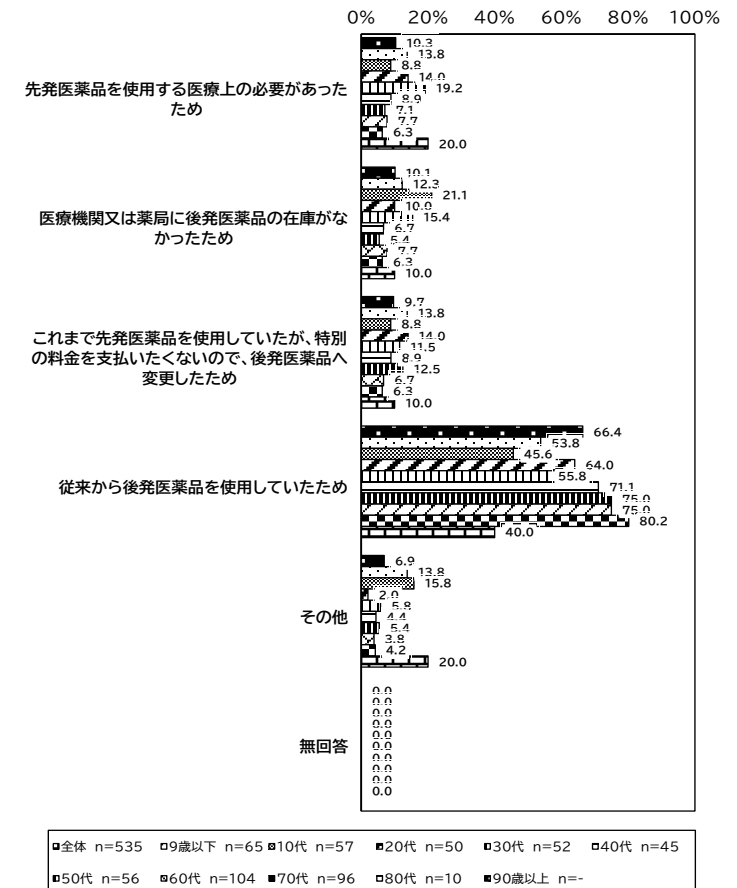
郵送調査

図表 7-45 特別の料金を支払っていない理由(複数回答)
(特別の料金を支払った経験のない人、年代別)



インターネット調査

図表 8-47 特別の料金を支払っていない理由(複数回答)
(特別の料金を支払った経験のない人、年代別)



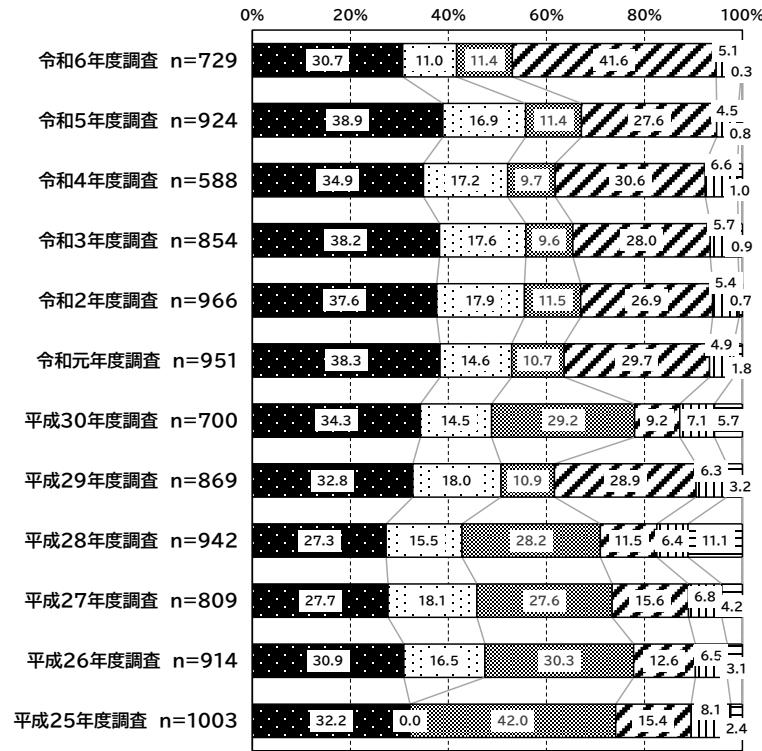
患者調査の結果⑤ー1

ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（報告書P335・P401）

○ ジェネリック医薬品の使用に関する考えについて、郵送調査では「ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない」が41.6%で最も多く、インターネット調査では「できればジェネリック医薬品を使いたい」が最も多く、42.4%であった。

郵送調査

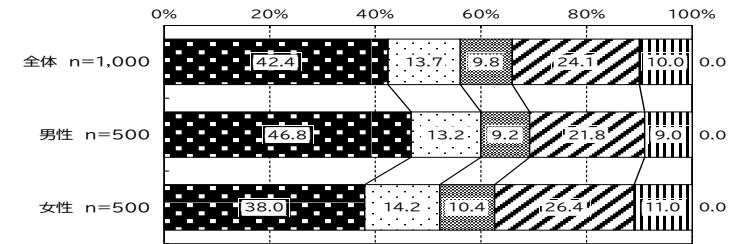
図表 7-48 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（経年比較）



■ できればジェネリック医薬品を使いたい
 □ とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
 ▨ できればジェネリック医薬品を使いたくない
 ▩ ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
 ▤ わからない
 □ 無回答

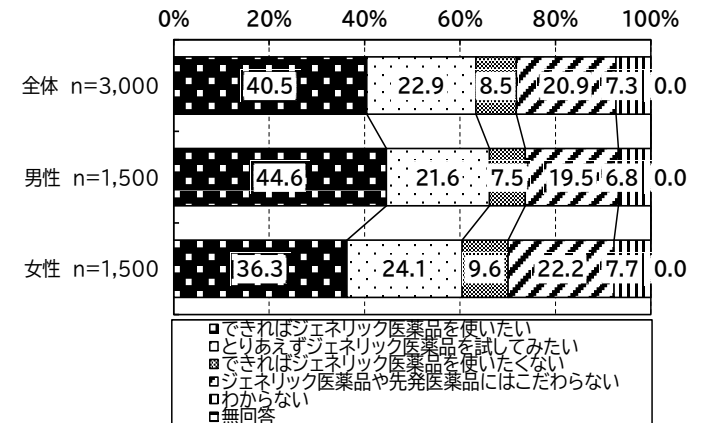
インターネット調査

図表 8-48 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（性別）



□ できればジェネリック医薬品を使いたい
 □ とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
 ▨ できればジェネリック医薬品を使いたくない
 ▩ ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
 ▤ わからない
 □ 無回答

図表 5-65（参考 令和5年度）
ジェネリック医薬品の使用に関する考え（性別）



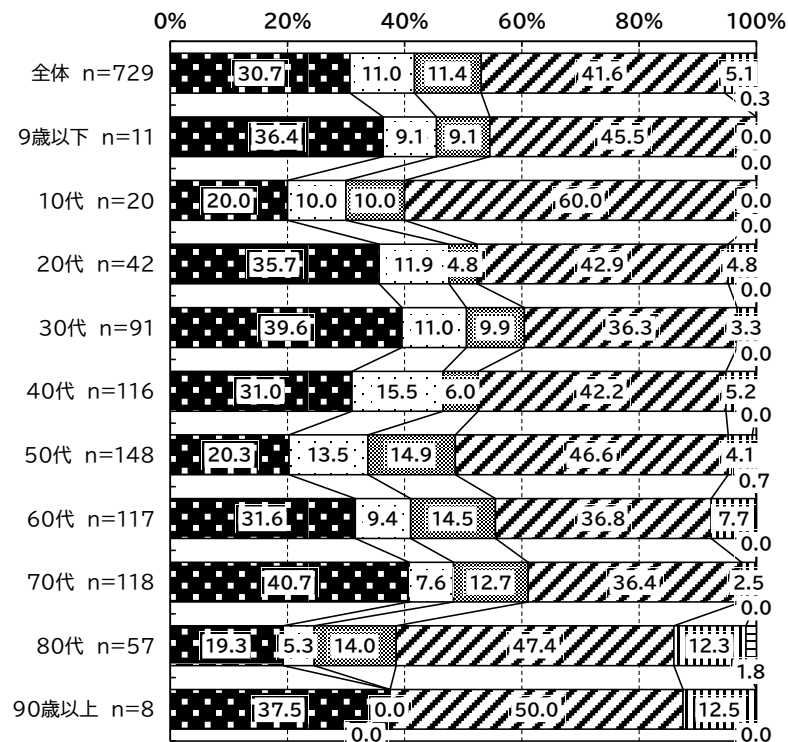
□ できればジェネリック医薬品を使いたい
 □ とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
 ▨ できればジェネリック医薬品を使いたくない
 ▩ ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
 ▤ わからない
 □ 無回答

患者調査の結果⑤－2

ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（年代別）（報告書P334・P402）

郵送調査

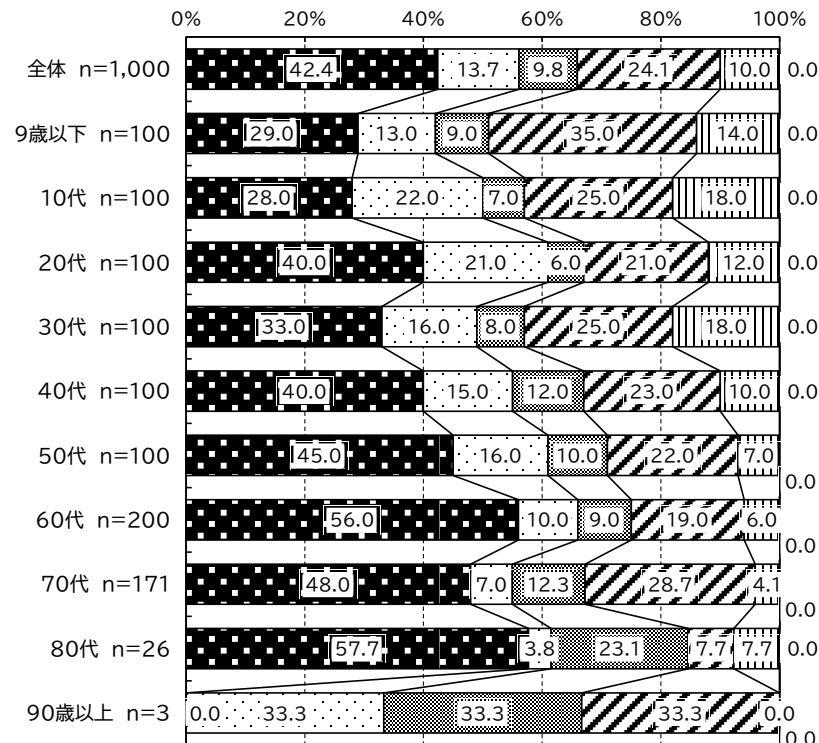
図表 7-47 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（年代別）



- できればジェネリック医薬品を使いたい
- とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
- できればジェネリック医薬品を使いたくない
- ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
- わからない
- 無回答

インターネット調査

図表8-49 ジェネリック医薬品使用に関する考えに最も近いもの（年代別）



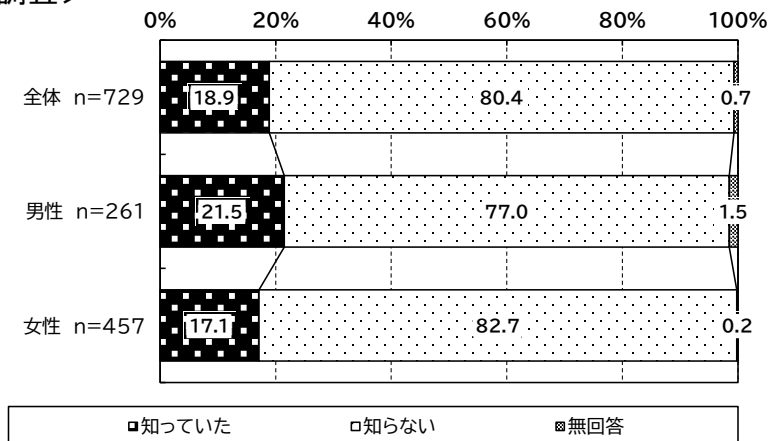
- できればジェネリック医薬品を使いたい
- とりあえずジェネリック医薬品を試してみたい
- できればジェネリック医薬品を使いたくない
- ジェネリック医薬品や先発医薬品にはこだわらない
- わからない
- 無回答

患者調査の結果⑥

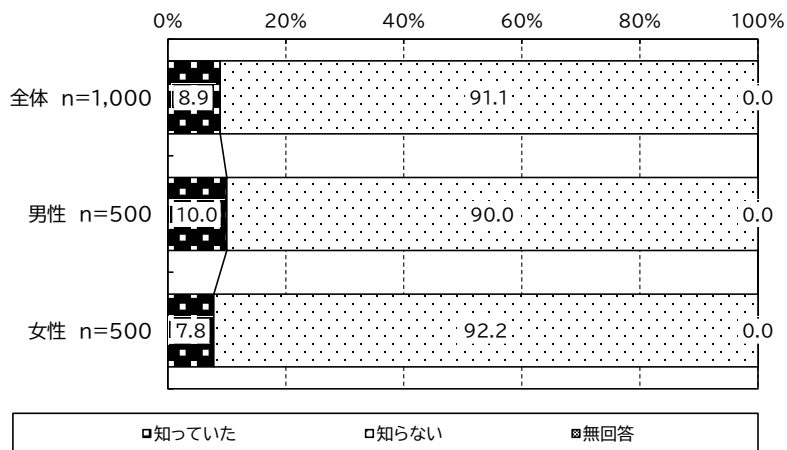
「バイオ後続品（バイオシミラー）」の認知度（報告書P342・P410）

○ バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度は、「知っている」は郵送調査で18.9%、インターネット調査で8.9%であった。

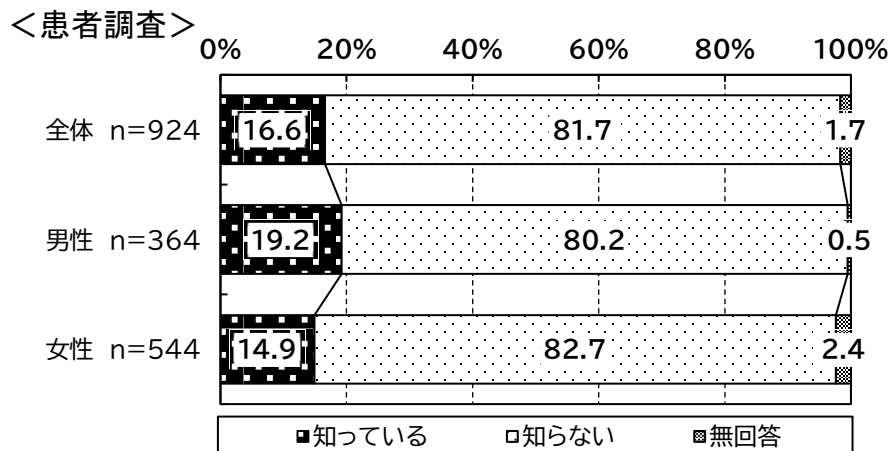
図表 7-55 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）
＜患者調査＞



図表 8-57 バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）
＜患者インターネット調査＞



図表 4-45（参考 令和5年度調査）
バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）



図表 5-45（参考 令和5年度インターネット調査）
バイオ後続品（バイオシミラー）の認知度（性別）
＜患者インターネット調査＞

